

Title	校本『勅撰名所和歌要抄抽書』(上)
Sub Title	Un Texte Confronté de Tyokusen-Meisyowaka-Yosyo-Nukigaki (I)
Author	中島, 正二(Nakashima, Shoji)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1992
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.61, (1992. 3) ,p.1- 51
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00610001-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

校本『勅撰名所和歌要抄抽書』(上)

中島正二

南北朝期に編まれた名所和歌集の一つに、『勅撰名所和歌要抄』(以下『要抄』)がある。その最善本の内閣文庫本によれば、『万葉集』から『風雅集』までの歌を対象として七七〇七首を集めた、二〇巻一〇冊の極めて大部なものである。そのため、『要抄』から歌を抄出し、さらに名所とともに詠み込む歌語等を加注した『勅撰名所和歌要抄抽書』(以下『抽書』)なるものが、遅くとも、室町後期にはつくられていた。本稿は、現在知られている『抽書』の三本の伝本のうち最も成立の早い慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵『勅撰名所和歌要抄抽書』(これは、もとは『勅撰名所和歌要抄抽書』とあったところが、書写の段階で「抄」の字が脱落したものであろう)を底本に、解題に記す他の二本の伝本を校合本として、その本文の異同を上欄に掲出するかたちで、三本の校異を示したものである(『要抄』から『抽書』への抄出の方法や『抽書』相互の関係等は別稿で論ずる予定である)、『抽書』それ自体が、当時の名所和歌集のあり方を考察する資料となることは言うまでもないが、それに加えて、『要抄』の内閣文庫本以外の伝本はすべて零本で

あるために、『要抄』の研究にも益するところがあると考へている。

凡例

- 一 底本の翻刻に際して次の方針に従った。
- (一) 旧字・異体字等は通行字体に改めることを原則とした。
- (二) 作者名は可能な限り各歌の下に一行書きに記した。
- (三) 明らかに誤字・誤脱等と思われる箇所には右に「ママ」を傍記した。
- (四) 破損部分は、推定される字数分の□によって示した。
- (五) 丁数は漢数字によって示し、各葉の表裏は「」で区別した。その際、裏には「ウ」を付した。
- (六) 和歌歌頭に便宜上漢数字をもって連番を付した。
- (七) 都合上、底本と異なった改行となった所もある。
- (八) 名所とともに詠み込む歌語等の注記は、原則として、斯道文庫本は名所の名をあげた行に記してあるのに対し、叡山

文庫本、龍谷大学本はともに例歌をあげた後にある。そこで、その部分は「」をもって表し、校異は斯道文庫本の位置に合わせて示すこととし、叡山文庫本、龍谷大学本との位置の異同を一々断ることはしなかった。

二 校異の掲出にあたって次の方針に従った。

(一) 仮名遣い、漢字・仮名、送り仮名、格助詞の「の」、助詞助動詞の中の「む」・「ん」(例えば「なむ」と「なん」、「けむ」と「けん」)等の異同は、解釈にかかわらずないかぎり略した。

(二) 漢字の異同は、通用範囲と判断した場合、略した(例えば「時鳥」と「郭公」、「峰」と「嶺」と「峯」、「千代」と「千世」、「三吉野」と「御吉野」、「更けて」と「深けて」等)。但し、漢字表記を考証している箇所は除く。

(三) 和歌の語句の異同箇所は、その連番の後に掲出した。その他の部分の異同箇所は、本文の右に付した見開きことの通し番号(算用数字)の後に掲出した。但し、双行部分に異同がある場合は、箇所の数にかかわらず、その行の冒頭に通し番号を一つ付した。

(四) 対校両本共通の異文は、叡山文庫本に従って掲出した。その際、両本間の異同については(一)(二)に準じた。

解題

底本と校合本(略称)の書誌を簡略に示す。

〈底本〉

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵本

函架番号、〇九一／ト四五／一。永正元年写。袋綴一冊。堅二七・〇種、横二二・二種。料紙、斐楮交澁紙。表紙、深緑色雲母引。外題、表紙左肩打付書「勅選名所和歌集」。内題、「勅撰名所咏歌要抽書」。墨付、七六丁。每半葉、一四行。字面高、約二四・六種。総歌数九四四首。奥書は左記の通り。

名山秀水之布于六十餘州也奇言／妙語之発于三十一字也境以人重／人以重入境相得而後道顯矣今覽／斯集拳志磯志摩之勝概而記／珍花奇藻之詞皆撰古今玉葉千載拾遺等集以大成曰／勅撰名所和歌要抽書凡有意于／吟詠者遊目於妓融神於妓事与／理浪境与智合在内之妙其与誰語焉」嗚呼歌豈易道乎哉／永正元年甲子菊月辰辰唯休道人書之

〈校合本〉

①叡山文庫本(叙)

函架番号、真如／外典／五一／一五／外三二一。慶長五年写。袋綴一冊。堅二五・二種、横一九・四種。料紙、楮紙。表紙、茶色波引。内題、「勅撰名所和歌要抄抽書」。墨付、一二三丁。每半葉、一〇行。字面高、約二〇・四種。総歌数九八六首。奥

書は左記の通り。

行歳七十四書之ノ慶長五年五月三日花開齋永無（花押）

②龍谷大学図書館本（菴）

函架番号、九一一ノ二〇八ノ七四。「江戸初期」写。袋綴二冊。

竪二六・八糎、横二〇・六糎。料紙、斐楮交漉紙。表紙、後補薄紺色。外題、左肩打曇題僉「勅撰名所和歌抄上（下）」。内

題、「勅撰名所和歌要抄抽書上（下）」。每半葉、一二行。字面高、約二二・九糎。総歌数九六六首。

〔付記〕

本稿を成すにあたって左の御論考に多大の学恩を賜った。

神作光一氏「勅撰名所和歌要抄と平安和歌―内閣文庫本の

検討序説―」（『国語と国文学』一九七〇年四月）

最後に、御所蔵本の翻刻を御承諾下された慶應義塾大学附属研究所斯道文庫長平澤五郎先生、並びに閲覧・調査を御許可頂いた叡山文庫と龍谷大学図書館の関係者各位に対し、厚く御礼申し上げます。

1 要抄書—要抄抽書(叙)要抄抽書上(竜)

2 乙訓郡 大原野—次行の「小塩山」の下(叙竜)

一 神の—神も(叙)・藤伊家(竜)

3 牙野沼 鹿 郭公—「小塩山」の注記(叙竜)
二 続後拾—続後撰(叙)ナシ(竜)かつらに—かつらを(叙)

4 ・—同 乙訓イ(竜) 5 鹿—ナシ(叙竜) 6 麓寺—麓竜

四 玉葉—(叙)金三(竜)今も—今は(叙竜)
7 瀧 白玉—瀧の白玉(叙竜) 8 同—葛野(叙)

9 一 小倉山(叙竜) 10 ・—書様(叙)書様(竜)
11 (延喜式)小倉—小屋(叙)小蔵(竜)

六 一 いかにせんをくらの山の(叙竜) 一 仲平(叙)師尹(竜)

七 一 同(叙)ナシ(竜) 一 大井河うかへる船のかゝ(叙竜) 朝臣—ナシ(叙竜)

八 続後撰—ナシ(叙竜) 一 小倉山すそのゝ里(叙竜)

九 ・—金三(竜)
* 八と九の順序が逆(叙竜)

12 ・—同郡(叙竜) 13 郭公—時雨(叙竜)麓の野辺の花すゝき「鶯」の後(叙) * 「夕月夜」鶯は「小倉山」の注記(叙竜)

三 新古—ナシ(叙) 新勅—(竜)

勅撰名所和歌要抄書

山分

山城国 乙訓郡 大原野

小塩山

一 新古 千世までも心してふけ紅葉を神の小塩の山風のかせ
二 続千 おほ原やをしほの桜咲ぬらし神代の松にかゝるしら雲
松尾山 葛野郡「牙野沼 鹿 郭公」

三 続後拾 たれしかも松のお山のあふひ草かつらにちかく契そめけん
嵐山・「松虫 鹿 瀧 麓寺 杉庵 桜」
順徳院

四 玉葉 世の中を秋はてぬとやさほしかの今も嵐の山に鳴らむ
龜山「⁷白玉 生葉」⁸同郡 漢朝有二所⁹所邊安郡¹⁰所邊壽懸

五 いにしへの鶴の林の春はあれとなを龜山の秋そかなしき
⁹同郡¹⁰延喜式小倉大井川序小倉前中書王山亭起譜維藏

六 郭公おほつかなしと音をのみそなく
業平朝臣

七 り火に小倉の山もなのみなけり
順徳院

八 続後撰 の夕霧に宿こそ見えね衣うつなり
順徳院

九 小倉山みねの嵐の吹からに谷のかけ橋紅葉しにけり
嵯峨山¹²「¹³夕月夜 鹿 郭公 桜 麓の野辺の花すゝき 我庵 山水」
頭季

一〇 後撰 さかの山御幸たえにしせり川のちよのふる道跡はありけり
行平

二 新古 さかの山千世のふるみち跡とめてまた露分るもち月の駒
定家

三 新勅 清瀧やせ々の岩浪高雄山人も風のかせそ身にしむ
高升上人

三 金葉一ナシ(竜)
14 一從中古或加其字龜兼説在賀茂
後元慶格云賀茂神山云々
玉くしの葉一玉くしけ(豹)
愛宕郡(竜) 15

六 続千一ナシ(豹)
夜るやこえけん一夜やきこえけん(竜)

七 まとふ一まよふ(豹)
一後拾(竜) 説さやけさ一さやけき(竜) 山は一山
の(竜)

17 一愛宕郡(竜)
三 説人不知一説知(豹) 説人不知(竜)
三 好忠一好士(豹)

18 北岩藏一東岩藏一順序が逆(竜)
三 新撰一新勅(豹)

19 三ノ玉かき一みつの山かき(豹) 20 頼政一ナシ
(豹)
三 説人不知一説不(豹)

二 一千載(豹) 一けり(豹) 一僧都(豹)
竜(有慶一有業) 竜
21 一鳥羽(豹)

常盤山 同郡〔郭公 岩つゝし 余所紅葉 鹿 松風〕
〔山里 時雨 下草 桜〕

三 金葉 浅みとりかすめる空の気色にや常盤の山は春を知らむ
14 神山・〔ならのはかしは 卯の花 松 榊 日かけのかつら 玉くしの
公敏母
15

二 続古 神山にゆふかけて鳴郭公稚柴かくれしはしかたらへ 後鳥羽院

一五 同 をとめこかゆふ神山の玉かつらけふはあふひをかけやそふらん 家隆

六 続千 いくちよか鳴てへぬらむちはやふるそのかみ山の松虫の声 資季二ウ

鞍馬山 同郡〔夜るやこえけん 墨染〕

七 後撰 おほつかなくらまの山の道しらて霞の中にまよふ今日哉 安法々師

一八 一 すみなるゝ都の月のさやけさになにかくらまの山は恋しき 齋院中務

大原山 同郡〔こゝろさし 比良〕

一九 新古 世をそむくかたはいづくもありぬへしおほ原山はすみよかりきや 和

音羽山・〔山科 郭公 松虫 紅葉 桜〕

二〇 古今 秋かせの吹にし日より音羽山みねの梢も色付にけり 説人不知

二一 新古 秋風の四方に吹くるをとほ山なれの草木かのとけかるへき 曾禰好忠

岩藏山 18 北岩藏 西岩藏 乙訓郡 愛宕郡
〔うこきなき 君か代〕

二三 新撰 足引の岩藏山の日影草かさすや神のみことなるらん 頼資

稲荷山 紀伊郡〔2019三ノ玉かき 打たゞき 郭公〕

二四 拾遺 たきの水かへりてすまはいなり山なのかのほれるしるしと思はん 説

一 一 いなり山しるしの杉の年ふりてみつの宮こに神さひに 一 有慶

山

六 同一万(歌ナシ)竜こゝうら(歌)

8 同郡ナシ(歌)

完 後撰ナシ(歌)ちるふる(歌)をも(歌)を(歌)

9 鹿(歌) 一万(歌) 草枕たひをくる(歌)

* 四〇の後に一首あり(歌)但、歌竜それぞれ異なる歌。後記。

10 取(歌)笠取山(歌) 11 相楽郡(歌) 12 露けき(歌)

四一の後に一首あり(歌)。後記。

13 愛宕郡(歌)

14 添上郡(歌) 添上郡次行の「春日山」の下(歌)

15 添上郡(歌) 同(歌) 二葉の松ナシ(歌)

16 山(歌) 井ナシ(歌)

17 おひにせる老にける(歌)

18 命(歌) やますは(歌) やますや(歌) 命(歌) 祈(歌)

19 古ナシ(歌)

20 同郡「佐保山」の下(歌) 19 柞ナシ(歌) 霧「呼子鳥」の上(歌) 20 云々(歌)

21 おもふやまなみおもふ山なみ(歌) 思ふやもきみ(歌)

八 相楽郡

完 後撰 はそ山みねの風のかせをいたみちることの葉をかきそあつむる

9 背山(うみ芋かくてふ 都と成ぬ鶯) 同郡

10 取(歌) 11 12 しみ恋をればかせの山辺にさほしかなくも

13 古今 雨ふれば笠(歌) 山の紅葉は(歌) 行かふ人の袖さへそてる

14 暗部山(梅 秋の夜の月 秋霧 紅葉)

15 大和国 添上郡

16 春日山(鶯 岩ね松 都の南 鹿 谷水 榊 天津こやねのます鏡)

17 同 けさの朝け雁か音さむし春日山紅葉にけらし我心いたし 穂積皇

18 同 春日山朝たつ雲のぬ日なく見まくのほしき君にもあるかな 家持

19 同 かすか山やまたからし岩の上のすかのねみんと月まちかたし 家隆

20 新古 春日山谷の埋木朽ぬとも君につけこせ嶺の松風

21 三笠山(時雨 紅葉 古郷 桜 二葉の松 榊 山の井 檜原 楨原)

22 万 大君のみかさの山のおひにせるほそ谷川の音のさやけさ

23 同 命(歌) いも待と三笠の山のやますけのやますはこひむ命しなすは

24 同 同郡 佐保山(呼子鳥) 柞(歌) 霧(歌) 柏木のもりのあたりをふりすてみかさの山に我は来にけり

25 万 佐保山(呼子鳥) 柞(歌) 霧(歌) さくたけの大宮人のいとすむさほの山をおもふやまなみ

26 万 佐保山(呼子鳥) 柞(歌) 霧(歌) さくたけの大宮人のいとすむさほの山をおもふやまなみ

27 万 佐保山(呼子鳥) 柞(歌) 霧(歌) さくたけの大宮人のいとすむさほの山をおもふやまなみ

28 万 佐保山(呼子鳥) 柞(歌) 霧(歌) さくたけの大宮人のいとすむさほの山をおもふやまなみ

29 万 佐保山(呼子鳥) 柞(歌) 霧(歌) さくたけの大宮人のいとすむさほの山をおもふやまなみ

30 万 佐保山(呼子鳥) 柞(歌) 霧(歌) さくたけの大宮人のいとすむさほの山をおもふやまなみ

31 万 佐保山(呼子鳥) 柞(歌) 霧(歌) さくたけの大宮人のいとすむさほの山をおもふやまなみ

32 万 佐保山(呼子鳥) 柞(歌) 霧(歌) さくたけの大宮人のいとすむさほの山をおもふやまなみ

33 万 佐保山(呼子鳥) 柞(歌) 霧(歌) さくたけの大宮人のいとすむさほの山をおもふやまなみ

34 万 佐保山(呼子鳥) 柞(歌) 霧(歌) さくたけの大宮人のいとすむさほの山をおもふやまなみ

35 万 佐保山(呼子鳥) 柞(歌) 霧(歌) さくたけの大宮人のいとすむさほの山をおもふやまなみ

空 かく山―かこ山(観)

突 一統後撰(観竜)

空 古今―ナシ(観)

12 出くる月―ナシ(観) 13 同郡―ナシ(竜)

* 六八の後に一首あり(観)。後記。

14 書様―ナシ(観)

突 古今―後撰(竜)

* 七〇の後に一首あり(観)。後記。

15 書様―ナシ(観) 16 一古(観) 17 後撰―ナシ(竜)

18 吉野郡―「吉野山」の下(観竜)

三 一金葉(観)身は一みや(観)

齒 花ならて―花ならば(竜)

矣 つら―つら(竜)

大 風雅―ナシ(竜)さくと―さくとも(竜)

矣 一新勅(観竜) 御吉野の水わ

け(観竜)瀧つ瀬ま―瀧つ瀬も(観竜)

空 新古 ほのくくと春こそ空にきにけらしあまのかく山霞たなひく 大上天皇

突 冬きては衣ほすてふひまもなく時雨ゝ空の天のかく山 同

耳無山〔喚子鳥 宇多野 池〕同郡 書様 延喜式兩説 耳無

空 古今 みゝなしの山のくちなしえてしかな思ひの色の下そめにせむ

椋橋山〔出くる月〕同郡 〔道〕

突 拾遺 五月やみくらはし山の郭公おほかなくも鳴わたるかな 実方

布留山 山辺郡〔紅葉 ならしの岡 雪の白木綿 郭公〕書様日本紀振留

突 古今 いそのかみふるの山辺の桜花うへけん時をしる人そなき 通昭

古 新古 ふかみとりあらそひかねていかならむまなく時雨のふるの神杉 大上

吉野山 書様日本紀吉野延喜式吉野〔16・岩のかけ道17後撰高きなげき 喚子鳥〕〔天皇〕

三 吉野山 書様万葉集吉野芳野兩説 紅葉の庵〔18吉野郡〕 源定信

三 千載 みよしのゝ花のさかりを今日みればこしのしらねに春かせそ吹 俊成

三 新古 いとひてもなをいとほしき世なりけり吉野ゝ奥の秋の夕暮 家衡

齒 同 花ならてたゝ柴の戸をさして思ふ心のおくもみよしのゝ山 慈円

矣 同 みよしのゝ山かきくもり雪ふれば麓の里はうち時雨つゝ 俊恵法師

矣 新勅 みよしのゝ山井のつらゝむすへはや花の下ひもをそくとくらむ 基俊

三 玉葉 みよしのゝ嶺の花そのかせ吹はふもとにくもる春の夜の月 常磐井入

大 風雅 梅の花さくとしらすやみ吉野ゝ山にともまつ雪のみゆらん 貫之

矣 水分山 同郡 山の瀧つ瀬ますゑはひとつのなかなれなりけり 寿証法

矣 一山の瀧つ瀬ますゑはひとつのなかなれなりけり 寿証法

△ 山陰―山きは(叡竜)

△ 象山 同郡〔喚子鳥 小川 中山〕
△ 詞花 みよしのゝきさ山陰にたてる松いく秋かせにそなれきつらむ 曾禰好一忠

△ 風雅―風(竜)

△ 風雅 朝霧にしとゝぬれて喚子鳥みふねの山を鳴わたるみゆ 人丸
御船山 〔万滝の上 同大君 桜 紅葉 鹿〕同郡

1 千霞の衣―ナシ(叡)霞の衣(竜)

△ 袖振山 〔千霞の衣 かさしの桜 玉かつら〕同郡 人丸

△ 一万(叡)万拾遺(竜)滅婦―滅婦(叡)久しき―久し(叡)

△ 滅婦こか袖ふる山のみつかきの久しき世より思ひそめてき 人丸
△ 綿後撰 このねぬる朝けのかせのをとめこか袖ふる山に秋やきぬらむ 後鳥羽
丹生山 同郡 〔院御製

△ 御製―ナシ(叡)竜

△ かなしも―かなしき(叡)竜なゆら―なゆく(叡)竜

△ 万 ひとりのみきけはかなしも郭公にふの山へになゆらなきにも

2 一紀伊下総阿国同名在也(竜) 3 葛―「いさよひの月」の下(叡)竜

△ 待乳山 宇智郡・〔葛 駒 郭公 女郎花 いさよひの月〕

△ わひしき―かなしき(叡)竜読人不知―読不(叡)

△ 後撰 いつしかと待乳の山の桜花まちても余所にきくかわひしき 読人不知
葛木山 〔紅葉 柳 まさ木 松 時雨 霞そかゝる〕葛木郡 金剛山

△ なかる―なかつ(竜)しぬらし―しぬらん(叡)

△ 万 飛鳥川もみち葉なかるかつらぎの山の秋かせ吹そしぬらし 人丸 彦彦

△ しもとゆふ―霜といふ(叡)

△ 千 てる月の旅ねの床やしもとゆふかつらぎ山の谷川の水 俊頼

△ 花より上―花より (叡)

△ 続古 しら雲や花より上にかゝるらむ桜そたかきかつらぎの山 順徳院

4 白雲―白雪(叡)

△ 高天山 同所〔嶺の白雲 瀧田〕

△ 一―千(竜)雲居―雲(叡)みてや―みや(叡)頭仲輔―頭輔(叡)竜

△ かつらぎやたかまの山の桜花雲居の余所にみてややみなん 頭仲輔
巨勢山 同郡

△ 万 こせ山のつら／＼つはきつら／＼に見つゝ思ふなこせのはるのを 坂

龍田山〔谷川 麓里 松 小倉峯〕平群郡 〔門人足

△ 万 おほとものみつのとまりに舟は出て立田の山をいつかこえゆかん

空 古今―ナシ(叙)山の―山に(竜)
空 読人不知―読不(叙)

空 読人不知―読不(叙)

空 金葉―金(竜)

空 ・―千載(叙)千(竜)清輔―俊恵法師(叙)

空 そよくなるかな―そよきぬるかな(竜)

空 九八の歌なし(叙)。

100 ・―続千(叙竜)

100 恋すらし―こひぬらし(叙)

100 読人不知―読不(叙)

100 ・―新勅(叙)竜葉の―葉を(竜)たおる―たおる(叙)手折(竜)・―曾禰好忠(竜)

5 書様―ナシ(竜) 6 時雨―郭公(叙)同郡―

100 三室山)の後(叙)

100 万―ナシ(竜)三むろの山―三室と山(竜)かた思ひをする―かた思ひする(竜)

100 拾遺―ナシ(竜)

100 金葉―ナシ(竜)

7 岩ねふむ―岩ねふみ(叙)

8 両国之名所也―両国名所也(叙)両国名所歟(竜)万―万十五(竜)あかる―あくる(竜)ほり―ほる(竜)秦間満―秦間満(竜)

空 古今 花のちることやわひしき春霞立田の山の鶯の声

空 後撰 雁か音のなきつるなへにから衣立田の山は紅葉しにけり 読人不知

空 同 ぬす人の立田の山に入ぬれはおなしかさしの名にやけかさむ 為頼

空 同 なき名のみ立田の山のをつゝらまたくる人も見えぬ所に 読人不知

空 金葉 瀧田山ちる紅葉をきて見れば秋はふもとにかへるなりけり 匡房

空 ・ たつたひめかさしの玉のをよはみ乱れにけりと見ゆる白露 清輔

空 新古 立田山木すゑまはらになるまゝにふかくも鹿のそよくなるかな 俊恵

空 玉葉 たつた山嵐の音もたかやすの里はあれにし寺とこたへよ 教興寺阿一

100 ・ から衣たつたの山の郭公うらめつらしき今朝の初声 上人

100 神南備山〔紅葉 いはし水 ぬさ 手向〕同郡 基俊

100 万 旅ねして妻恋すらし郭公神なひ山にさ夜深てなく

100 新古 おのか妻恋ひつゝ鳴や五月やみ神なひ山の山ほととぎす 読人不知

100 ・ ちはやふる神なひ山のなる葉の雪振さけてたおる山人

100 三室山 書様 日本紀三諸万葉三室 〔玉くしけ ち酒鹿〕同郡

100 万 見わたせば三むろの山の岩こそすけ忍ひに我はかた思ひをする

100 拾遺 神なひのみむろの山を今日みれば下草かけて色付にけり 曾禰好忠

100 金葉 かみかきの三室の山に霜ふれはゆふしてかけぬ神葉そなき 権大夫師

100 伊駒山〔紅葉 岩ねふむ 桜 大江きし〕同郡 通河内国也 8 両国之名所也

100 万 夕されはひくらしきなく伊駒山こえてそあかるいもかめをほり 秦間

二三 玉葉―玉竜

1 川内郡―次行の「伊駒山」の下(叡竜)

2 延喜式往馬―延喜往駒(叡)

二三 統古―ナシ(叡)奥―沖(竜)

3 有馬郡―次行の「有馬山」の下(叡竜)

二〇 権察使―ナシ(竜)

4 水無山―水無瀬山(叡竜)

二三 〇―詞花(叡)竜まちかね山―まつかね山(叡)

* 二三の後に一首あり(叡)。後記。

5 〇―嶋上郡

二四 〇―一万(叡)竜 〇―ともか(叡)鳥まつか
(竜)読人不知―読不(叡)

二〇 玉葉 伊駒山嵐も秋の色に吹手染のいとよるそくるしき

河内国 川内郡¹

伊駒山〔宿の木すゑ 永ぬの浦〕書様²延喜式往馬伊古麻胆駒
^{建保内裏御会伊駒}

二〇 統古 伊駒山余所になるおの奥に出て目にもかゝらぬ峯のあま雲 源家長

撰津国³ 有馬郡

有馬山〔猪名野 宿なき野辺〕書様²延喜式有馬有間
^{阿説也万葉有間}

後白河院忍て御幸侍けるとき

二〇 千載 めつらしき御幸を三わの神ならはしるしあるまの出湯ならまし 権察

羽東山 能勢郡

二二 新古 秋はつるはつかの山のさひしきに有明の月を誰とみるらん 匡房

水無山⁴ 嶋上郡

二三 統千 みなせ山ゆふかけ草の下露や秋行鹿のなみたなるらむ 後久我大政大

待兼山〔郭公〕

二三 〇 こぬ山をまちかね山の喚子鳥おなし心にあはれとそきく 肥後

三国山⁵

二四 〇 みくに山木すゑにすまふむさゝひの 〇 くることわれ待やせん 読人不知

伊勢国

神道山〔鈴鹿川 しめ縄 神 もゝえの松〕度会郡

二五 千載 ふかくいりて神路のおくを尋ぬればまた声もなき峯の松かせ 円位法

朝熊山 同郡

〔師

〔満

定家〔六ウ

6 ・一鈴鹿郡(叡竜) 7 雪こそ関のーナシ(叡)

8 紅葉ーナシ(叡)

二六 ・一統千(叡)関一(叡)

* 二八の後に二首あり(叡)。後記。

9 成ぬれー成ぬれは(叡) 10 ともしーともしひ
〈野路のさゝ原〉の(後)(叡)

三〇 千載ー玉葉(叡)玉(竜)

三三 しらなくにーしらなく(竜)兼盛ー菅原(叡)

三三 玉葉ー玉(竜)菅原孝標朝臣ー孝標(叡)菅原孝標
(竜)

二六 続拾 あとたれていく代へぬらむ朝熊やみ山をてらす秋の夜の月 延季

鈴鹿山・(時雨の雨 雪こそ関の 鷹 紅葉) 書様延喜式鈴鹿
催馬集鈴鹿

伊尹朝臣一條撰政をんなの公に衣をぬきをきて取につかはして

二七 後撰 鈴鹿山いせおのあまの捨ころもしはたれたりと人々見るらむ

二八 ・ すゝか山明たちかき関の戸をふり出て鳴ほとゝきすかな 雅有

参河国

二村山「関と成ぬれ 紅の錦 野路のさゝ原 玉くしけ ともし」¹⁰

二九 後撰 くれはとりあやに恋しくありしかは二村山もこえすなりにき 清原諸

「実

三〇 千載 さみやみふたむら山の郭公みねつゝき鳴く声をきくかな 俊恵モウ

宮道山 播豆郡

三三 後撰 君かあたり雲みに見つゝ宮ち山うちこえゆかんだ道もしらなくに 兼盛

三三 玉葉 嵐こそ吹こさりけれ宮ち山また紅葉ゝのちらて残れる 菅原孝標朝臣

遠江国

高師山「浦の松原 浜名橋 松の下道」

三三 新勅 雲のある木すゑはるかに霧籠てたかしの山に鹿を鳴なる 鎌倉右大臣

三三 佐夜中山「かひかね 旅ねの床 時雨 時鳥」佐野郡

三三 新古 岩か根の床に嵐を片敷てひとりやねなんさ夜の中山 有家

三三 新後 旅衣夕霜さむきさゝの葉のさやの中山あらし吹なり 衣笠内大臣

駿河国

富士山「桜 池あり」富士郡 書様延喜式富士郡良香記同
12万葉集・不尽

三三 拾遺 ちはやふる神も思ひのあれはこそ年へて富士の山はもゆらめ 人丸

三三 新後ーナシ(叡)新勅(竜)さむきーまねき(竜)

11 駿河国ー次行の「富士山」の上(叡)

12 「郡良香記同」と「万葉不尽」の位置が逆(竜)

13 ・一集(叡)

三〇 新古(叡竜) 原(叡竜) たな引ーにな
ひく(竜)

三一 玉葉竜 ーめにかけて 幾日

一 津(叡竜) 2 葛ー鳥(竜)

三二 ためそーために(叡竜)

三三 続後撰ー続後(叡竜)

三三 古今ー古(竜)

3 足下郡ーナシ(叡竜)

三三 ー千載竜 朝臣ーナシ(叡)

4 ー足下郡(竜) 5 ーきる(叡竜)

一三 関の山路ー山の関路(叡)

一三 ことかきをー木たかきを(叡竜)

三〇 さまの ーふしの煙の春の色の霞たな引明ほの ー空 慈円

三六 ー ーきぬらむあつまちや三国にさかふ富士のしは山 権大僧正

一 山(せきとはきかす かねて 葛ふける庵) 「隆算」

三元 新古 都にも今や衣をうつの山夕霜はらふつたの下道 定家

志豆播山(霞の衣) 知家

三三 風雅 たかためそしつはた山のなかき日に声のあやをる春の鶯

伊豆国

伊豆御山

三三 続後撰 ちはやふるいつのを山の玉つはきやを万世も色はかはらし 鎌倉石大

甲斐国

塩山

三三 古今 しほの山さしての磯にすむ千鳥君か御世をはやちよとそ鳴

相模国

三三 ー ともしてはこねの山に明にけりふたよりみよりあふとせしまに 橘

宮根山(粟まきて たつ) 足下郡

足柄山(舟木) 杉 富士 岩のかけ道 「俊綱朝臣

二四 後撰 あしからの関の山路をゆく人はしるも知らぬもうとからぬかな 素性

鎌倉山 鎌倉郡

二五 万 新こるかまくら山のこたきを松となかいはこひつゝやあらむ

下総国

下総国

6 待乳山—ナシ(歌)

* 二一の歌なし(歌)。

7 常陸国—ナシ(歌)

8 鳴鹿 紅葉—ナシ(竜) 9 一右神社(歌)

二七 かくはしく—かうはしき(歌)かくはしき(竜)

* 二七の後に三首あり(歌)。後記。

二六 千載—千(竜)

二五 一ながら(歌)竜

10 一康治(歌)竜 11 一門(歌) 12 長実公

女—長実公母(竜)

* 「逢坂山」の前に「滋賀山」の項目あり(歌)竜。後記。

二四 一同千載(歌)ナシ(竜)名のる—なれる(歌)。

二三 一岩の(歌)過行は—過行と(竜)

13 大和国—大和(歌) 14 歌合—哥今(歌)大和趣—

大和(歌)竜 15 同郡—「手向山」の下(歌)

二二 庵りせんこは—庵りせんこ(歌)庵をむこ(竜)

二一 なるらし—ならし(歌)竜

二〇 海の一梅の(竜)

一九 新古—新(歌)まの—まの(竜)下野—ナシ(歌)

6 待乳山

二三 新勅 まつち山夕こえ暮ていほさきの角田かはらにひとりかもねん 弁基法

常陸国 筑波山〔鳴鹿 紅葉〕筑波郡⁹ 師

二七 万 たちはなの下吹かせのかくはしくつくはの山をこひすあらめかも 広

近江国 長等山〔井 昔 松風の声〕滋賀郡 方

二六 千載 ふゝきするなからの山を見わたせばは尾上をこゆるしかのうら浪 良清

二五 続古 すかのねの〔 〕の山の峯の松吹くるかせも万世の声 資実

〔 〕元年近衛院¹²鳥羽院¹¹御子御母美福・院 大嘗会風俗歌 顯輔

二四 同 逢坂山〔し)のすゝき いはし水 さねかつら 紅葉 鶯〕同郡 師時

二四 同 関山 同郡 関山の峯の杉むら過行はあふみはなをやはるけかるらむ 忠房

二三 後撰 手向山¹⁴古今聖廟御歌合歌大和趣¹⁵ 同郡

二二 万葉 ゆふたゝみ手向の山をけふこえていつれの野へに庵りせんこは 坂上

来増山 同郡 「郎女」人

二一 拾 わかせこをきませの山と人はいへと君もきまさぬ山の名なるらし 「丸

比良山〔桜 花誘引〕同郡 範兼

一九 千載 さゝ浪や比良の高ねの山おろし紅葉を海の物となしつる 後鳥羽院下

一八 新古 吹おろすひら山かせやさむからんまの浦人衣うつなり

石山 同郡

「野
長能」^五ウ

一四 同 新古(叢竜)こもれる—こかれる(叢)

1 □し火—蘆火(叢)蘆し火(竜) 2 卿—朝臣(竜)

3 よめり—よめる(叢竜)

一六 万—ナシ(叢竜)ゆふたゝみ—夕たゝみ(竜)

4 霜—藪(竜)

一五 ・—続古(叢竜)さえまさる—ふきまさる(竜)前
左大臣—前右大臣(竜)

一五 ・ 衣手のたなかみ川や氷るらむみほの山かせえまさるなり 前左大臣
大蔵山 永承元年後冷泉院後朱雀院第一皇子御母内侍曾孫子御堂御女

御時大賞会御屏風〔ほとゝぎす 御調物〕

一五 後拾—後撰(竜)たてたれば—たてみれば(叢竜)

一五 後拾 うこきなき大くら山をたてたればおさまる御世を久しかるへき

鷹尾山

一五 たかのお山—たかをの山(叢竜)

一五 新古 とやかへるたかのお山の玉椿霜をはふとも色はかはらし 匡房

一五 弥高山〔雪ふれば てらす月日の〕

一五 榊にて—榊もて(叢竜)

一五 拾遺 あふみなるいやたか山の榊にて君かちよをはいのりかさゝむ 兼盛

一五 三室山 寛治三年堀川院御時大嘗悠紀歌

一五 新勅 時雨ふるみむろの山の紅葉ゝたかおりかけし錦なるらむ 匡房

朝日山 山城国有同名 仁治三年後醍醐院御時大嘗会
悠紀万葉俗歌

一五 あきらけき御世のはしめの朝日山あまてる神の光りなりけり 為長

一五 三上山 野洲郡 書様⁵式御上〔榊 やす川 玉椿〕

一五 千載 常磐なるみかみの山の杉むらややを万世のしるしなるらん 季経朝臣

守山 同郡 嘉応元年高倉院後白川院御子御母建春門院御時
大嘗会悠紀万神遊歌〔下紅葉 下葉の露 下草懸て 袖に人めを〕

一五 なりけり—成ける(竜)
* 一五の歌補入(竜)。
5 式—或(竜)
一五 朝臣—ナシ(叢竜)

一五 すへらきを―すへらきや(竜)
6 とよのあかり―ことしのあかり(歌)

7 蒲生郡―ナシ(歌)

一六 統千―ナシ(歌)

一三 鶴の―鶴も(歌) 読人不知―読不(歌)
* 一三の歌なし(竜)。

8 一枕(歌)

一三 金葉―金(歌) 竜 一―三宮大進(歌) 竜

9 美濃国―次行の「伊吹山」の上(竜)

一六 秋の―秋は(歌)

10 同郡―ナシ(歌)

一四 定家―定家卿(竜)

一五 新後―新古(竜)

一六 新古(竜)

11 一―又近江清輔抄ニ見

一七 後拾遺―後拾(歌) 後撰(竜)

一七 すへらきをやを万代の神もみなときはにまもる山の名そこれ 永範

鏡山〔年へぬる身は 紅葉 とよのあかり〕同郡

一八 拾遺 花の色をうつしとよめよ鏡山春より後の影や見ゆると 是則

一九 新勅 くもりなき神のみむろに影そへてむかふ鏡の山のはの月 法眼源承

奥津島山 蒲生郡

二〇 統千 かせわたる鳩の水海空晴て月影きよし奥津嶋山 前関白大政大臣

玉緒山 同郡 仁和御時光孝天皇 号小松院大嘗会

二一 かまふのよ玉のを山にすむ鶴のちとせば君か御世のかすかも 読人不

鳥籠山〔露の・鶉 秋の旅ね 苔延 ふす猪〕犬上郡 「知」ニウ

二二 金葉 妻こふる鹿を鳴くなるひとりねの床の山かせ身にやしむらん

美濃国

伊吹山〔野 神社アリ〕不破郡

二三 続後撰 夜とよにもえて年ふるいふき山秋の草木の色に出つゝ 寂勝法師

美濃中山 同郡

二四 続古 色かはるみのよ中山秋こえて又遠さかるあふさかの関 定家

美濃御山

二五 新後 むかしとてかたる斗の友もなしみのよお山の松のふる木は 為家

因幡山〔雪 時雨〕

二六 忘れなんまつとなつけそ中くいなはの山の峯の秋かせ 定家

船木山

二七 後拾遺 いかなれば舟木の山の紅葉はの秋はすくれとこかれさるらん 通俊

一六 ・ 拾遺(叡竜)嵩一みね(叡竜)

飛驒国

位山〔こむらさき 花の都 坂ゆく 峯の松〕益田郡

一六 ・ くらゐ山嵩までつける杖なれと今万世の坂のためなり

能直

一六 続古 すへらぎのくらゐの山のご松原今年やちよのはしめなるらむ 宗尊親

〔王

信濃国

更級山〔里¹・田アリ〕更級郡

一 里アリ―「田アリ」の下(叡)

一七 ・ あちきなくなくさめかねつさらしなやかくらぬ山も月は住らん 後鳥

二 大和物語―大和物語に(叡)

姨捨山〔寺アリ 大和物語見えたり〕同郡

〔羽院

三 千載―ナシ(叡竜)

一七 千載 わするなよおはすて山の月見ても都を出る有明の空 頼実

浅間山〔雲晴れぬ 神アリ〕小縣郡

3 下野国―上野国へ次行の「黒髪山」の下(竜)

一七 新古 いたつらにたつやあさまの夕煙里とひかぬるをちこちの山 雅経

黒髪山〔木の下露〕

三 万―ナシ(叡)

一七 万 鳥羽玉の黒髪山のやますけにこさめふりしきます―そ思ふ

陸奥国

三ウ

5 ・ 信夫郡(竜) 6 松のはも―松の葉(竜)

一七 信夫山⁵〔なみたしくれと 下紅葉 下草 しか 松⁶のはも 下行水〕

一七 千載 郭公なを初声を忍ふ山夕ゐる雲のそこに鳴なり 仁和寺法親王守覚

一七 新古 人しれするしき物は忍ふ山下はふ葛のうらみなりけり 清輔

末松山〔浦ちかく ふりくる雪 横雲 藤〕名取郡

一六 ・ 新古(叡竜)老の―老の浪(叡竜)

一七 老のこえける身こそあはれなれことしも今はすゑの松山 寂蓮

一七 ・ 続後(叡竜)おもふ―思ひ(竜)

一七 うしとおもふ心のこゆる松山はたのめしかひもなくなりにけり 信明

7 安積郡―ナシ(叡)

一七 ふかきを―ふかきに(叡)前大納言―前大納(竜)

一五 さかえん―さかえん(叡)竜

8 杜ハ摂津(竜)

一八 時雨けん―時雨らん(叡)竜

9 出羽国―出雲国(叡)次行の「恋山」の上(竜)

一六 新勅(叡)新古(竜)

10 若狭国―次行の「後瀬山」の上(竜)

11 青葉山―青羽山(叡)竜 12 主桜―遅桜(叡)竜

13 清輔抄陸奥云々(竜)

一三 千載(叡)竜

14 越前国―次行の「有乳山」の上(竜)

15 つるか―はるか(竜) 16 人に―人(竜) 17 雁

一ナシ(叡) 18 同郡―ナシ(叡)

一五 古(竜)

19 一也(叡) 両国之名所也―両国名所也(叡) 両国

名所歟(竜)

一六 かけて―さして(叡)

安積山〔井沼〕⁷安積郡

やくもたつ道はふかきをあさか山あさくも人の思ひける哉 前大納言

美知能久山

すへらぎの御世さかえんとあつまなるみちのく山にこかね花さく 家

磐手山⁸〔谷の埋木 涙の川 谷の下水〕

くちなしの一しは染のうす紅葉いはての山はさそ時雨けん 為家

出羽国

恋山

恋の山しけきを篠の露分て入初むるよりぬるゝ袖哉

若狭国

後瀬山

続拾 うつろはん物とや人に契りをきし後せの山の秋の夕露

青葉山〔水鳥松 主桜 露 霜をけは〕¹³

常磐なるあをはの山も秋くれは色こそかへねさひしかりけり 前大僧

越前国

有乳山〔みねのあわ雪 人の心〕敦賀郡

あらち山色かはり行秋かせにかなて鹿の妻をこふらむ

帰山〔つるか いつはた人に 雁〕¹⁷同郡

かへる山ありとはきけと春かすみたちわかれないは恋しかるへし 紀利

塩津山〔駒そつまつく〕¹⁹八雲御抄并籠兼抄越前云々 同郡

朝あけのひかたをかけて塩津山吹こすかせにつもるしら雪

加賀国

二三

一六 黒かみの一黒髪の色(竜)

1 玉くしけ 郭公一ナシ(叡竜)

一六 万一十六竜 ここむ一こうむ(叡) 驚そ子うむ
(竜・一さしはふも(竜) 君かためにそ一君かた
めに(叡) 君かためにそ(竜) 子うむ一子こむ
(叡)

一六 落る一帰る(叡)

2 千世能山一ナシ(叡) 3 真砂より岩ねになれる

一ナシ(叡)

一六 ませる一させる(叡竜)

4 之時一御時(叡竜) 5 神遊歌一神歌(叡)

一五 同一千載(叡竜)

一五 ・一金(叡金賀(竜)

6 ・一余佐イ(竜)

一五 万一ナシ(竜)

一七 後撰 白山〔老にけり 神社アリ 池アリ〕 石川郡
しら山に雪降ぬれはうは玉のわが黒かみのかはるなりけり

越中国

二上山〔玉¹くしけ 郭公〕射水郡

一六 万 二上山〔玉¹くしけ 郭公〕射水郡
しふたにのふたかみ山にここむといふ・君かためにそ驚そ子うむとい
ふ

丹波国

一六 新古 大江山〔玉かつら いく野 鹿〕桑田郡

一六 新古 大江山かたふく月のかけさえて鳥羽田の面に落る雁かね 慈円

千世能山〔真砂より岩ねになれる〕

一六 千載 ちとせ山神の世ませる榊葉のさかえまさるは君かためとか 光範

神南備山 長元九年後朱雀院¹一条院第三皇子御母⁴ 大嘗会
之時⁵ 主基方神遊歌

一五 同 常磐なる神なひ山の榊葉をさしてそいのる万代のため 義忠

桂山

一五 続古 てる月のかつらの山に家あしてくもりなき世にあへる秋かな 同

鼓山 大嘗会主基方辰日参音声

一五 ・音たかきつゝみの山のうちはへてたのしき御世となるそうれしき 行

丹後国

椋橋山 与謝郡

一五 万 橋たてのくらはし山にたてる白雲見まほしみ我するなへにたてる白雲 〔人丸

但馬国

入佐山

一六 新後―ナシ(叡)

一五 千載 ゆふつく夜入さの山の木かくれにほのかにもなく郭公かな
一六 新後 さみやみほくしの松をしるへにて入さの山にともしをそする 法性寺
岩見国 「入道関白

一七 拾遺―拾撰(叡)ナシ(竜)見けん―見せん(叡)

一七 拾遺 石見なる高間の山の木のまよりわかふる袖をいも見けんかも 人丸
高角山

一八 続古 いはみのやゆふこえ暮て見たせはたかつの山に月そいさよふ 為^三ウ
鴨山 「氏

一九 万―万二(竜)いはねしまける―岩ね敷ける(叡)

一九 万 かも山のいはねしまける我をかもしらすていもかまちつゝあらむ 人
播摩国 「丸

二〇 千載―千(竜)

二〇 千載 高砂 賀古郡
二〇 高砂 高砂の尾上の桜さきぬれば梢にかゝる奥津しら浪 成保
二〇 年月の数をも知らしふもとよりつもれるちりの高砂の山 一条内大臣

二一 詞花―ナシ(叡)竜さら山―さら山とは(叡)読人
不知―読不(叡)竜

二一 詞花 久米作良山 久米郡
二一 久米作良山 久米郡
二一 備中国
二一 吉備中山〔細谷川 松〕 「不知

二二 金葉―ナシ(叡)竜

二二 金葉 鷺のなくにつけてやまかねふくきひの山人春をしるらむ 顯季
二二 弥高山 近江国有同名

* 二二の前行に「大嘗会主基方歌」とあり(叡)竜。
二二 梢より―梢には(叡)竜

二二 雪ふれはいやたか山の梢よりまた冬なから花咲にけり 行盛
二二 岩屋山 治暦四年後三条院後朱雀院御子御母大嘗会主基方
陽明門院三条院女御時神樂歌

二五 一・千(叡竜)

1 一・金剛峯寺(竜)

二六 千載一十(叡竜)

2 那賀一那賀郡(竜)

二七 金葉一金(叡竜)

3 有田郡一ナシ(叡)立田郡(竜)

4 一[]一月まつ(叡竜)

三三 道の一人の(竜)

三三 良守一法印良守(叡竜)

5 よはせーよませ(叡)思出きてー思出られて(叡竜)

6 淡路嶋山一淡路山(竜)

三五 古今一古(竜)読人不知一読不(叡竜)

二五 ・ うきなきちよをそいのる岩屋山とる神葉の色かへすして 経術

二六 新勅 ふかみとり玉松かえの千世までもいは屋の山そうこかさるへき 頼資
紀伊国

高野山・¹〔法のともし火 御幸 玉川〕 伊都郡

二七 千載 あかつきをたかの山に待ほとや昔の下にも有明の月 寂蓮

妹妹山〔うちはし 瀧〕伊都郡 那賀両郡 可決之 公実

二八 金葉 いもせ山峯の嵐やさむからん衣かりかね空に鳴なり

名草山 名草郡

二九 風雅 なくさ山とるやさかきのつきもせず神わさしけきひのくまの宮 紀俊

三〇 絲鹿山〔桜〕³有田郡 〔文朝臣 尾張

いとか山くる人もなき夕暮に心ほそくもよふことりかな

切目山〔⁴浪の海士の釣舟〕日高郡

三一 万 きりめ山行かふ道の朝霞ほのかにたにやいもにあはさらむ 〔⁴ウ

三熊野山 牟婁郡〔世をそむく 松風〕

三三 玉葉 みくまの山南の山の瀧津瀬に三とせそぬれし苔の衣手 良守

神蔵山 同郡

三三 統古 みくまの山神くら山の岩たみみのほりはてともなをいのる哉 入道前

那智山⁵〔花山院の御座のありける前に桜の木の時を 同郡 〔大政大臣

風雅 木のもとにすみける跡を見つる哉那智の高根の花を尋て 西行

淡路国

淡路嶋山〔入日かすめる 須磨〕⁶

三五 古今 わたつみのかさしにさせる白妙の浪もてゆへるあはち嶋山 読人不知

三六 一万(叡竜)しらすとーしらすも(叡竜)

三六 阿波山
まゆのこと雲居に見ゆるあはの山かけてこく船とまりしらすと

7 崇徳院ー崇徳院の(竜)

讃岐国
松山(崇徳院身は松山にとあそはしたる所なり)阿野郡

三七 後拾ーナシ(叡)後拾遣(竜)□ーの(叡竜)

三七 後拾 松山□松のうらかせ吹よせはひろひて忍へ恋わすれかひ

筑前国
朝倉山 上座郡

三六 新後ー新古(叡竜)

三六 新後 ほとゝきす朝くら山の明ほのにとふ人もなき名のりすらしも 成仲

志加山 糟屋郡

三九 志かの山ー志かの海士の(叡竜) 読人不知ー読不(叡竜)

三九 万 志かの山しほやく煙かせをいたみたちはのほらて山にたなひく 読人

「不知

* 「豊前国」の前に「可也山」の項あり(叡)。後記。

鏡山

三〇 万 豊くにかゝみの山に岩戸たてかくれにけらしまでときまさぬ

四極山

三三 古ーナシ(叡)古今(竜)

三三 古 しはつ山うち出て見ればかさゆひの嶋こきかへるたなゝしを舟

三三 続後撰ー続後(叡)恋しみー恋しも(竜)

三三 続後撰 しはつ山ならの下葉をおり敷て今夜はさねん都恋しみ 俊成

肥前国

8 ー松浦郡(叡竜)

松浦山⁸

三三 ひれふりしーひれふれし(叡) おつるーおへる

三三 とをつまつらさ夜ひめつま恋にひれふりしよりおつる山のかな

未勘国

9 ー但伊勢歎(竜)

矢野神山・(妻かへす あつさ弓 武士)

三五

三三 紅花―紅(竜)菅原右大臣―ナシ(竜)

三六 時雨に―時雨る(竜)読人不知―読不(竜)

三七 かれく―に―かれく(の)観

1 嶺分―嶺二(観)嶺(竜)

2 大和国―前行の「嶺」の下(竜) 3 吉野郡次
行の「吉野嶺」の下(観) 号大嶺

4 ・外山(観) 5・―金峯神社 (竜) 6 て思
かけす(を見て)―ナシ(観)

三三 金葉―金(観)竜

三三 常磐井入道―ナシ(観)

三三 同―ナシ(竜)

7 同郡―ナシ(観)竜

三三 新勅 かり鳴てさむき朝けの露霜にやのゝ神山色付にけり 鎌倉右大臣

日晩山

三五 後撰 日くらしの山路をくらみさ夜深て木の末ことに紅葉てらせる 菅原右

神垣山

三六 同 ちはやふる神かき山の榊葉ゝ時雨に色もかはらきりけり 読人不知

夕陰山

三七 かれく―に霜をさまよふ冬の日の夕陰山の道のしは草 前内大臣基

一重山

三六 万 ひとへ山かさなる物を月夜よみ門に出たちいもかまつらむ 家持

嶺分¹

大和国 吉野郡³

[⁴・すゝの下かせ]吉野嶺⁵・平等院僧正行尊⁶一条院御孫⁶大峯にて思かけす桜の

三九 金葉 もろともにあはれと思へ山桜花より外にする人もなし

三三 新後 鶯の山御法の庭にちる花をよしのゝ峯の嵐にそみる 後京極摂政

三三 金 みよしのゝ峯の花そのかせふけは麓にくもる春の夜の月 常磐井入道

前大僧正道昭^{三井常住院} 後光明峯寺殿御子 大峯のふる屋の泊にて

三三 続千 なみたのふるやの軒のいたひさしもりくる月そ袖にくもれる 同

青根嶺 同郡「花のしら浪 きゆる白雲」

三三 万 みよしのゝ青ねか峯の苔筵誰かをりけむたてぬきなしに

小倉嶺

三三 新古 白雲の春はかさねて立田山をくらの峯に花にほふらし 定家

常陸国

三三 後撰―ナシ(勲)陽成院御製―陽成院(勲)竜

8 雲はふもとの―ナシ(勲)

9 嵩―嵩三(勲)次行の「大和国」の上(竜)

三三 新古―ナシ(勲)

10 吉野―郡―ナシ(勲)吉野郡(竜)

三三 同―ナシ(勲)新勅(竜)

11 根―根四(勲)次行の「甲斐国」の上(竜)

12 甲斐根―ナシ(竜)

三三 さやにと―さやかに(勲)さやにも(竜) けゝれ―
けゝら(竜)読人不―読不(勲)竜

筑波根嶺〔紅葉〕

三三 後撰 つくはねの峯よりおつるみな川の恋そつもりて淵となりぬる 陽成院

信濃国

〔御製〕二六

風越嶺〔雲はふもとの〕

三三 千載 風こしをゆふこえくれは郭公ふもとの雲のそこになくなり 清輔

嵩⁹

大和国

吉野嵩

三三 新古 今夜たれすゝ吹かせを身にしめて吉野嵩の月をみるらん 頼政

弓槻嵩 吉野¹⁰郡〔叢たなひく まきもく〕

三三 続古 あなしふくゆつきかたけに雲消てひはらかうへに月わたるみゆ 前大

伊駒嵩〔秋しのや 外山 難波 紅葉〕平群郡 〔納言基

三三 雲ふかきみ山のあらしさえくゝて伊駒の嵩に叢ふるらし 鎌倉右大臣

近江国

大嵩 滋賀郡

三三 新勅 おほたけの峯ふくかせに霧晴てかゝみの山に月そくもらぬ 慈円

三上嵩 野洲郡

三三 同 はるかなるみかみのたけを目にかけていくせわたりぬやすの川浪 後

根¹¹ 〔京極撰政

甲斐国

12 甲斐根〔雪降ることに 思こそやれ〕

三三 古今 かひかねをさやにとみしかけゝれなくよこふりふせるさやの中山 読

- 1 一万⁺ つくはをかりさけみつゝ(竜)
 2 にくくわまゆー新葉まつ(叡)
 3 さゆる山 を山ーさゆる あしを山(叡)さゆり
 あしほ山(竜)
 三三 とよめーとめ(竜)
 4 滋賀郡ーナシ(叡竜)
 二四 大はらやー大原は(叡竜)
 二五 衣笠内大臣ーナシ(叡)
 5 岳ー岡五(叡)次行の「山城国」の上(竜)

- 常陸国
 筑波根¹「にくくわまゆ² 岩もとゝろにおつる水³ さゆる山⁴ を山⁵ は
 るのみ山」
 二四 万 つくはねに我ゆけりせは郭公山ひことよめなましやこれ
 近江国
 比良高根「霰 若菜つむへく野はなりにけり」⁴ 滋賀郡
 二四 新勅 大はらやひらの高ねのちかければ雪ふる程を思ひこそやれ
 越前国
 有乳高根 敦賀郡
 二五 岳⁵ 玉葉 吹かせのあらちの高ね雪さえてやたのかれ野に霰ふるなり
 山城国
 衣笠岡 葛野郡
 二四 続古 音にきくきぬかさかをまた見ねは待つゝそふるあめの宮には
 御興岡 同郡
 二五 御こしをかいつれの世ゝに年をへて今日の御幸を待てみつらむ
 双岳 同郡
 二四 風雅 色ゝにならひの岡の初紅葉秋のさかのゝゆきゝにそみる
 亀岡 同郡⁷ 後宇多院
 二四 後撰 万代にちよをかさねてみゆる哉亀の岡なる松のみとりは
 船岳「野中 女郎花」 資業
 二五 玉葉 舟岡のすそのゝつかの数そへてむかしの人に君をなしつゝ
 西行

8 同郡—葛野郡(叡)

二三 □撰—続後(叡) 秋かこそ—秋とそ(竜)

二三 □撰 片岡〔岩ねの苔路〕 同郡³
わすれては秋かとそおもふかた岡のならの葉分て出る月影 親康

八塩岡

二三 新勅 くれなゐの八しほの岡の紅葉をいかに染よと猶しくるらむ 伊光

大和国

逝廻岳〔雪 葛かつら 春の木のもと〕 高市郡

二三 勅撰—ナシ(叡) 読人不知—読不(叡) 竜

二三 勅撰 あすか川ゆきよの岡の秋はきはけふふる雨にちりか過なん 読人不知

檀岡〔とのゐ〕

二三 かりの—かりのこ(竜) かへりきね—帰りこね(竜)

二三 万 とくらたてかひしかりのすたちなはまゆみの岡にとひかへりきね

河内国

交野岡 交野郡

二三 ことほりやかた野をかに鳴きよすさこそはかりの人はつられ 内

武藏国

〔大臣家越後

※ 「向岡」の前に「忍岡」の項目あり(竜)。後記。

向岡〔夕月日 ますかよみ〕

二三 万 いてよみるむかひの岡のもしけくさきたる花のならすはやまし

二三 草ならば—草なれば(竜)

二三 新勅 むさしのよむかひの岡の草ならばねを尋てもあはんとそ思ふ 小町二六ウ

近江国

水茎岡〔やかた かりかね くす 萱〕

二三 万 秋かせの日ことにふけは水くきの岡の木葉も色付にけり

二三 ふりはや—ふればや(竜)

二三 新後 水くきの岡のあさちのきりくす霜のふりはや夜さむなるらん 順徳

陸奥国

〔院

信夫岡 信夫郡

三六 続―続古(竜)
※ 「磐代岳」の前行に「紀伊国」あり(観)。

三六 新古―新勅(観)いくよかは―いく代とか(竜)

三六 一―続古(竜)土御門―土御門院(竜)

一 杣―杣六(観)次行の「和泉国」の上にある(竜)

二 泉杣―ナシ(竜)

三三 新勅―万新勅(観)万十一新勅(竜)やむことも―
やすむことも(観)やむときも(竜)読人不知―読
不(観)竜

三 一―黒賀郡(観)甲賀郡(竜)

三五 みほの―みつ(の)竜

四 滋賀郡―志賀郡(竜)

三六 千載―ナシ(観)千(竜)

三七 一―千(竜)能因―能園(観)

五 林―林七(観)次行の「山城国」の上(竜)

三六 続 なにことを忍ぶの岡の女郎花思乱て露けかるらむ 俊恵

磐代岳 日高郡

三六 新古 行す多は今いくよかは岩代の岡のかやねに枕むすはん 式子内親王

未勘国

三六 入日岡 はしたかのすゝのしのはらかりくれて入日の岡にきゝす鳴なり 土御

杣¹ 和泉国

三六 泉杣² 宮木ひく泉の杣にたつ民のやむこともなく恋わたるかも 読人不知

近江国

三六 朽木杣〔人もすさめぬ 我恋や〕³ 花さかていく世の春にあふみなる朽木の杣の谷の埋木 雅経

水尾杣 高嶋郡

三五 拾遺 高嶋やみほの中山そまたてゝつくりかさねよちよの浪くら 読人不知

我立杣⁴ 滋賀郡〔庵しめて 山のかひある〕

三六 千載 おほけなくうき世のたみにおほふ哉我たつ杣にすみ染の袖 慈円

美濃国

三七 梓杣 宮木ひくあつさの杣をかきわけて難波の浦を遠さかりぬる 能因

林⁵ 山城国

「九ウ

三六 拾遺―ナシ(叡)拾八(竜)・藤原後生(竜)

6 限―限八(叡)次行の「山城国」の上(竜)

三六 ・古(竜)読人不知―読不(叡)竜

三七 古今―古(竜)よそに―よそに(竜)^{影イ}

7 こたへよこたへと(竜)

8 阿武限―ナシ(叡)

9 坂―坂九(叡)次行の「相模国」の上(竜)

三三 たちて―たて(叡)立て(竜)ともるも―ともかも(叡)竜

三四 続後撰―続後(叡)竜

月林

三六 拾遺 むかしわれおりしかつらのかひもなし月のはやしめしにいらねは・

限⁶

山城国

小嶋限 宇治郡

三六

大和国

佐繪限 高市郡

三七

陸奥国

古今 さゝのくまひのくま川に駒とめてしはし水かへよそにたにみん

三二

阿武限

拾遺 たけくまの松を見つゝやなくさめん君かちとせのかけにならひて

後撰 あふくまの霧とはなしに夜もすから立わたりつゝよをはふるかな

坂⁹ 相模国

足柄御坂 足上郡

三三

信濃国

三四

越前国

続後撰

しなの路や木曾の御坂の小篠原分ゆく袖もかくや露けき

長方

1 伊津波坂—伊津波太坂(竜)
二五 一万十八(竜)

伊津波坂¹
帰るさの道ゆかんまはいつはたの坂に袖ふれ我をし思はゝ
紀伊国
家持

二六 万—万純古(竜)こゆる—こゆと(竜)

二七 万
藤代御坂〔吹上浜〕 名草郡
ふち代のみさをこゆる白妙の我衣手はぬれにける哉
行相坂

三〇ノ

二七 同—ナシ(観)万(竜)□もかも—もかも(観)こ
もかな(竜)

二七 同
行あひの坂の麓にひらけたる桜の花を見せん□もかも
澤²

2 澤—澤十(観)次行の「山城国」の上(竜)

山城国

3 葛野郡—ナシ(観)

広澤 葛野³郡

二八 なかれて—なかれは(竜)

二八 風雅
心さしふかく波てしひろさはのなかれて末もたえしと思ふ
大和国
後宇多
「院

大和国

布留野澤〔忘水〕 山辺郡

二九 玉葉—玉(観竜)

二九 玉葉
たれとなく忍ぶ昔の形見にもふるのゝ澤の若菜をそつむ
俊成

4 井—井十一(観)次行の「山城国」の上(竜)

山城国

飛鳥井〔花のかげ〕

三〇 同—玉(観竜)

三〇 同
かりそめと思し物をあすか井のみま草かくれいくよねぬらん
唯明親
「王

玉井〔にこりもはてぬ〕 相楽郡

三一 千載—千(観竜)

三一 千載
冬くればゆくてに人はくまねとも氷そむすふ玉の井の水
成家「

大和国

5 一吉野郡(竜)

三吉野山井⁵

云三 つらゝつゝら(竜)下ひも一帯(竜)
※「亀井」の前行に「撰津国」とあり(竜)。

云三 後拾一後撰(叙竜)

云四 千載一干(叙竜)

6 在之簡所一在之同所(叙)三ヶ所(竜) 7 ・一昔
なからの 岩もる水 涙をむすふ(叙竜)

云五 手のかけになれゆく一手に影乱れ行く(竜) かた
ふきにけり一かたふきにける(叙)

云六 拾遺一ナシ(叙)

8 ・一栗田郡(竜) 9 ・一主基御屏風(叙竜)

云七 風雅一諷(叙竜)

10 承明門院一承明院(叙竜)

云八 ・一新古(叙竜) 松井の一松の井(叙) 資実一賢
実(叙)

11 ・一後記(竜) 12 ・一田中井戸在也(竜)

13 水一水十二(叙)次行の「山城国」の上(竜)

14 ・一此大原へ城西城北不審可決之(竜)

云〇 後拾一後撰(叙竜) 大はらの一おほらの(叙竜) 素
師一素性(叙竜)

云三 新勅 みよしのゝ山みのつらゝむすへはや花の下ひもをそくとくらむ 基俊

亀井〔御法の跡 うき木〕 西生郡

云三 後拾 万代にすめる亀井の水やさはとみのを川のなかれなるらむ 弁乳母

伊勢国

忘井 齋王郡

云四 千載 わかれ行宮このかたの恋しきにいさむすひみん忘井の水 齋宮甲斐

近江国

云五 山井 滋賀郡 6 山井名所在之簡所一所当国 一所洛降三条坊門北京極西一所陸奥国安積郡 〔・〕⁷

云五 新古 むすふ手のかけになれゆく山の井のあかても月のかたふきにけり 慈

走井 元輔

云六 拾遺 はしりゐの程をしらはやあふ坂の関引こゆる夕かけのこま 元輔

丹波国

増井 8 永仁六年後伏見院御時伏見院第一御子御母 大嘗会 ⁹ 隆博

云七 風雅 涼しさをまするの清水むすふ手にまつかよひくるよろつ代の秋 隆博

松井 建久九年土御門院 10 後鳥羽院御子 御時大嘗会 御母承明門院 主基方御屏風

云八 ・ ときはなる松井の水を結ふ手のしづくことにそ千代は見えける 資実

田中井戸 11 ・「をくてのをしね」 12 催馬楽呂歌

云九 続古 さきにけり苗代水に影みえて田中の井戸の山ふきの花 堀川

水 ¹³

山城国

隴清水 ¹⁴

云〇 後拾 み草めし大はらのしみつそこすみて心の月の影はうかふや 素師

三六 ふかけれとふかけれは(観)

1 ・―山ふかき(竜)

三五 め手の玉水井手の玉水(観竜) 読人不知―読不(観竜)

二五 飄雅―ナシ(観)詞(竜) □綱―範綱(観竜)

2 湯―湯十三(観) 次行の「撰津国」の上(竜)

3 有馬郡―ナシ(観) 4 ・―延喜式有馬有馬両説(竜)

二四 千載―ナシ(観)千(竜)なるへし―ならまし(観)

三五 拾遺―拾遺長(竜) いづれもほんのまま也―ナシ(観)

二六 ・―拾遺(観)同(竜) ・―兼盛(観竜)

5 氷室―次行の「山城国」の上(竜)

三六 下影―木陰(観)

淀澤水 乙訓郡

二六 新古 まこもかるよとのさは水ふかけれとそこまで月の影はすみけり 匡房

井手玉水 相楽郡 ^{〔・1〕}

二五 新古 山しろのゐる手に扱てたのみしかひもなき世なりけり 読人不知

撰津国

忘水 住吉郡

二五 飄雅 すみよしのあさゝはを野の忘れ水たえくならてあふよしも哉 □綱

湯²

撰津国

有馬湯 有馬郡³・後白川院御幸之時⁴

二四 千載 めつらしき御幸を三輪の神ならはしるしありまの出湯なるへし 資賢

下野国

那須湯 那須郡

二五 拾遺 なそもかく世をしも思なすの湯のたきるゆへをもかまへ

つゝわか身を人の身になしておもひくらへよ いづれもほんのまゝ也

陸奥国

名取御湯

二六 ・ おほつかな雲のかよひち見てしかなとりのみゆけはあととはかもなし・

氷室⁵

山城国

宇多氷室 葛野郡

二七 新勅 涼しさをほかにもとはし山しろの宇多の氷室のまきの下影 西園寺

6 炭竈―炭竈十五(叡)次行の「山城国」の上(竜)

7 愛宕郡―次行の「大原炭竈」の下(叡竜)

二六 同一新勅(叡)

8 池―池十六(叡)次行の「山城国」の上(竜)

9 ・―葛野郡(叡竜) 10 ・―きく(叡竜)

二五 ・―後(竜)おほく―いたく(竜)世に―也に(叡)
読人不知―読不(叡竜)

三〇 ・―風二(竜)

三〇一 ・―後撰(竜)きかれめ―きかれん(叡)

11 益田池―ナシ(叡) 12 高市郡―ナシ(叡)

三三 読人不知―読不(叡竜)

三三 万―ナシ(叡)すらも―すらに(竜)・―紀皇女

(竜)

13 磐池―磐余池(叡竜)

三四 読人不知―読不(竜)

三五 同一(叡)君か―君は(竜)読人不知―読不(叡)

14 同郡―添下郡(叡)添上郡(竜)

炭竈⁶

山城国 愛宕郡⁷

大原炭竈

二六 同

ふる雪に人こそとはねすみかまのけふりはたえぬ大はらの里 讚岐

池⁸ 山城国

大澤池 ・⁹ [・]¹⁰

二六

ねぬなはのねぬなのおほくたちぬれはなを大さはのいけらしや世に 「読人不知」

三〇

ひろさはの池のつゝみの柳陰みとりもふかく春雨そふる 為家

三〇一

おなしくは君とならひの池にこそ身をなけつとも人にきかれめ 承香 「殿中納言

大和国 益田池〔をし鳥〕¹¹ 高市郡¹²

三三

拾遺 ねぬなはのくるしかるらむ人よりも我そます田のいけるかひなき 読

三三

万 かるのいけの入江めくれるかもすらも玉もの床にひとりねなくに 「人不知

三四

拾遺 なきことをいはれの池のうきぬなはくるしき物は世にこそありけれ 「読人不知

三五

同 わきもこか身を捨しより猿澤の池のつゝみや君か恋しき 読人不知

菅田池 同郡¹⁴

三〇六 ・ 一千(叡竜)

1 「昆陽池…決之」は次行(叡竜) 2 あやめ あしーナシ(叡)

三〇七 かもめこそよかれにけらしいなるこやの池水うは氷けり 僧都長

こほりせり(童)長算一良算(叡)良弁(童)

三〇八 同一後撰(叡竜)つらきーつゝき(叡) 読人不知ー 読不(叡竜)

三〇九 ・ 一万(竜)ものかーものを(竜)

3 彼国有ー彼国(叡)其所知ー有所所知(叡)其所(童)

三〇 千物名ー千載物名(竜)ねさらんーあさらん(童) 肥後ー二条太皇太后宮肥後(竜)

三二 ・ 一万(竜)ひしのーナシ(叡)

三三 読人不知ー読不(叡竜)

4 堤ー堤十七(叡)次行の「和泉国」の上(竜)

5 沼ー沼十八(叡)次行の「山城国」の上(竜)

三〇六 ・ 恋をのみすかたの池に水草ひてすまてやみなむ名こそおしけれ 待賢

撰津国 昆陽池 河辺 武庫 両郡可決之「あやめ あし」 「門院安芸」三〇

三〇七 後撰 かもめこそよかれにけらしいなるこやの池水うは氷けり 僧都長

生田池 八部郡

三〇八 同 津の国のいく田の池のいくたひかつらき心を我に見すらむ 読人不知

真野乃池

三〇九 ・ まのゝ池のこすけを笠にぬはすして人のよそなをたつへきものか

下総田「はちすなし くい」

三〇 千物名 池もふりつゝみくつれて水もなしむへかつまたに鳥のねさらん 肥後

豊前国 企救池

三二 ・ とよ国のきくの池なるひしのうれをつむとやいもかみ袖ぬるらん 白

未勘国 狩道池

三三 万勅 遠つ人かりちの池にすむ鳥のたちてもあても君をしそ思ふ 読人不知

堤 4 和泉国

横野堤

三三 続古 霜かれのよこ野ゝつゝみかせさえていりしほ遠くちとり鳴くなり 光

沼 5 山城国 「俊

三二 さえのーさゆ野(叡)

三三 牙野沼 乙訓郡
をしは山松かせさむし大はらやさえのゝ沼やさえこほるらむ 中務
撰津国

六 ・嶋上郡(叡竜)

三五 千 五月雨にあさゝは沼の花かつみかつみるまゝにかくれゆくかな 頭仲
玉江沼 6
近江国 清輔「言ウ

三六 同一千(叡)

三六 同 水こもりにあしの若葉やもえぬらむ玉江の沼をあさる春駒 清輔「言ウ
近江国

三七 後拾ー後撰後拾(叡)後撰上(竜) あふみはーあふ
みにか(竜) おふるーおもふ(叡) くるゝめーくる
しめ(叡竜)

三七 後拾 あふみにはありといふなるみくりおふる人くるゝめのつくま江の沼
上野国 「道信

七 群馬郡ーナシ(叡)

三六 ・ 伊香保沼〔こなき〕 群馬郡
いかほのやいかほの沼のいかにして恋しき人をいま一めみん 読人不
陸奥国 「知

八 陸奥国ー次行の「安積沼」の上(竜)

三九 金 安積沼 9
あやめ草ひくてもりゆくなかきねのいかてあさかの沼に生ふらん 孝善
瀧 10
山城国

三九 瀧ー瀧十九(叡)次行の「山城国」の上(竜)

一〇 白波ー岩なみ(叡竜)

三〇 清瀧〔瀬ゝの白波〕 葛野郡
きよたきの世ゝのしらいとくりためて山分衣をりてきましや 祐泰法
一きましを(叡竜)祐泰ー神泰(竜) 「師」

一一 古今ー古(叡竜)世ゝのー瀬ゝの(叡竜) きましや

三三 ・ なるたきやにしの川せに御祓せん岩こす浪も秋やちかきと 俊成

三二 ・統後撰(竜)

三三 鳴瀧 同郡

三三 千一拾遺(竜)はやくもーはやくと竜 定仁ー空仁(竜)

戸難瀨瀧 同郡〔紅葉 筏〕

三三 千 大井川となせの瀧に身をなけてはやくも人にいはせてし哉 定仁法師

三三 音羽瀧 愛宕郡〔五月雨 山科〕

三三 拾遺 音羽山せき入ておとす瀧つせに人の心の見えもするかな 伊勢

白川瀧 同郡

三三 ー後撰(叡竜)ほしけれ。ーほしけれと(叡竜)

三四 ー しら川の瀧のいとみまほしけれ。みたりに人はよせし物をや 中務

稻荷瀧 紀伊郡

三五 ー拾遺(竜)すまゝーすまは(叡竜)

三五 瀧の水かへりてすまゝいなり山七日のほれるしと思はむ 読人不

大和国

「知

1 ー吉野郡(竜)

三六 吉野瀧〔せとの岩ほも あゆはしる〕¹

三六 万代に見るともあかんやみよしの瀧の川内の大宮所 金村

宮瀧〔古御幸〕

三七 ー後撰(叡竜)たきのーたきつ(叡竜) 素性法師

三七 秋山にまどふ心にみやの瀧たきのしらあわとけちやはてなん 素性法師

布留瀧

〔師〕三五ウ

三八 ー後拾遺(竜)

三八 今も又行ても見はやいそのかみふるの瀧つせ跡を尋て 後嵯峨院

摂津国

2 仙人のころもー仙人家(叡)仙人の家(竜)

三九 布引瀧 八部郡〔天の川 白雲 仙人のころも〕²

三九 古今ー古(叡竜)

三九 ぬしなくてさらせる布を七夕に我こゝろとや今日はかさまし 長成

紀伊国

三〇 ー統古(叡竜)式乾門ー式乾門院(叡) 式乾門御

三〇 那智瀧 牟婁郡

三〇 たちの山はるかに落る瀧津せにすゝく心のちりものこらし 式乾門

3 同郡ーナシ(竜)

三〇 音無瀧 同郡〔袖のしからみ〕

三 詞花一詞(叡竜)

三 詞花 恋わひてひとりふせやに夜もすから落る涙や音なしの瀧 俊忠

4 ・一夢に(叡竜)給ひけり給ひける(叡竜)

鳴瀧 同郡
ある人の身のしづめることをなきてあつまのかたへゆかんと思ひて
4 熊野に御前につうやして侍けるに・しめし給ひけり

三 新古 思ふこと身にあまるまてなる瀧のしはしよとむをなになけくらん

肥後国

鼓瀧

三 拾 をとにきくつゝみの瀧をうち見ればたゞ山川のなるにそありける

窟⁵

山城国

笠置窟

三 すぐらん―すぐぬる(叡竜)

三 千物名 名にしおはゝつねはゆるきのもりにしもいかてかさぎのいはやすくら
「ん」 「登蓮法師

紀伊国

三 穂窟 日高郡

三 わかこか―わかこも(叡)

三 万 しのすゝきくめのわかこかいましけるみほのいはやは見れとあかぬか
「も」

志都窟

三 ・一万(叡同竜)

三 ・ おほなむちすくなみ神のおはしますしつの岩屋はいく世へぬらん 村
「主

岸⁶

大和国

7 五月雨―ナシ(叡)
三 岸―岸⁶一(叡)次行の「大和国」の上(竜)
三 五月雨―ナシ(叡)
三 岸⁶ 三室岸 平群郡「五月雨」
三 千(叡)千十七(竜) あたし野に―あたにのみ
三 岸⁶ あたし世に(竜)

三 三 室岸 平群郡「五月雨」
三 岸⁶ あすしらぬみむろの岸のねなし草なにあたし野においはしめけん 小
「三六」

※ 「龍田岸」の次行に一首あり(叡電)。後記。

龍田岸 同郡

摂津国

〔大進

三六 わたのへや―わたなへや(叡電) 良暹法師―良暹

三七 後拾 わたのへや大江のきしにやとりして雲ぬに見ゆる伊駒山哉 良暹法師

(叡電)

播磨国

藤江岸

三九 統後撰―統後(叡)

四〇 統後撰―むらさきの藤えのきしの松か枝によせてかへらぬ浪そかゝれる 大上

1 紀伊国―次行の「磐代岸」の上(叡)

四一 紀伊¹国 磐代岸 日高郡 〔天皇

四二 又見けんかも―又も見んかも(電)

四三 万 いはしろのきしの松か枝むすひけむ人は帰りて又見けんかも

2 原―原廿二(叡)次行の「山城国」の上(電)

原² 山城国

」

平野原 葛野郡

四四 あやすきよ―あや杉に(電)元輔―ナシ(電)

四五 竹田原 紀伊郡 おひしけれひらのゝ原のあやすきよこぎむらさきにたちかさぬへく 〔元輔

竹田原 紀伊郡

四六 法皇―ナシ(電)

四六 続千 契りをは我万世のともなれや竹田のはらの鶴のもろ声 法皇

3 綴喜原(叡電)

綴喜原³

四七 統古十七(電)

四七 長月のつゝきの原の秋草にことしはあまりをける露哉 行家

躰原 相楽郡 〔都いてゝけふ〕

四八 田辺福丸―田島福院(電)

四八 万 みかのはらくにの宮こはあれにけり大宮人のうつりぬれば 田辺福

大和国

〔丸

御垣原 〔古郷せり はし紅葉〕 吉野郡

三三 初花―初風(竜)

三三

しろたへの袖かたとそ見る若菜つむみかきか原の梅の初花

定家

三四 ・―古(竜)読人不知―読不(観竜)

三四

朝原〔若菜きよす 女郎花〕 葛下郡
霧たちて雁そ鳴くなるかた岡の朝の原は紅葉しぬらん 読人不知

三五 武庫郡―ナシ(観)

三五

角松原〔みな野〕 武庫郡

三七

三六 万―万十七(竜)

三六

あま乙めいさりたく火のおほしくつゝ松原おもほゆるかも

三七 つるこのこ―鶴の子(観竜) かそへめ―かそへめる(竜)

三七

山田原 度会郡
神のます山田のはらのつるこのこはかへるよりこそち世はかそへめ

三八 いもこひ―いもに恋(観竜)

三八

〔伊勢嶋〕若松原 三重郡 紀伊国有同名 天平十二年 庚辰十月辛伊勢国時
いもこひわかか松はら見わたせは塩干のかたにたつ鳴わたる 聖武天皇

三九 新勅―ナシ(観)

三九

浮嶋原〔富士川〕 富士郡

四〇 近江国―次行の「千、松原」の上(竜)

四〇

あしからの関路こえゆくしのゝめに一むらかすむらき嶋か原 後京極

四一 千松原―千、松原(竜)

四一

千松原〔君は万代〕 犬上郡 堀川院御時寛治元年大嘗会 悠紀方風俗歌
常磐なるちゝの松はら色ふかみ木たかきかけのたのもしかな 匡房

四二 伊那郡―ナシ(観竜)

四二

曾乃原 伊那郡 〔ふせやといふも〕

四三 金

四三

はゝ木ゝの梢やいかにおほつかなみなその原は紅葉しにけり 師資

四四 切原 〔関の岩かと〕

四四

三二 新勅一ナシ(竜)

8 かゝる一ける(観竜) 9 給ひけり一給ふける
(観)給ひける(竜)

三三 古今一古(観竜)

三三 拾遺一拾(観竜)なかれも一渡るも(観)もれは一
かれは(竜)読人不知一ナシ(観)

※ 三三の次に一首あり(観竜)

三四 古今一古(観竜)

三五 一・千(観竜)

三六 拾遺一拾(観竜)

三六 後拾一後撰(観竜)

10 御手洗川一御手洗川事書ニあり(観)御手洗事書ニあり(竜)

11 螢アリー事書ニあり(観竜)

三六 新勅一ナシ(観)おとす一おとせ(観竜)

12 一駒とめてしはし水かへ御幸(観)

三〇 しつけみ一しつけき(観竜)けふ一けら(竜)

三二 明にけり一明ぬなり(観竜)

戸難瀬川 同郡

三二 新勅 となせ川岩間にたゝむ筏土や浪にぬれても暮を待らん 俊成

西川 8 法皇にし川におはしましたりかゝる日狭かひに
9 さげふといふ題にて歌よませ給ひけり

三二 古今 わひしらにましらなゝきそ足引の山のかひあるけふにやはあらぬ 「

梅津川 同郡

三三 拾遺 名のみしてなかれも見えず梅津川いせきも水ももれはなりけり 読人

紙屋川 同郡

三四 古名 物名 むはたまのわか黒髪やかはるらむかゝみの影にふれる白雪 貫之

清瀧川 同郡

三五 一・ 筏おろす清瀧川にすむ月はさほにさはらぬ水なりけり 俊恵法師

三六 新古 ふりつみし高根のみ雪とけにけり清瀧川の水のしら浪 西行

大原川 愛宕郡

三六 拾遺 世の中にあやしきものは雨ふれと大原川のひるにそありける 惠慶法

貴布祿川 同郡

三六 後拾 思ふことなる川上にあとたれて貴船は人をわたすなりけり 時房

社司共貴布祿に参て雨こひし侍けるつゐてよめる 〔1110瀬辺螢アリ〕

三六 新勅 おほみたのうるはふはかりせきかけていせきにおとす川上の神 賀茂

鴨川 同郡 〔12〕

三〇 万 かも川ののちせしつけみ後もあはむいもには我よけふならずとも 〔幸平

中関白大入道のいみに長徳元年法興院にこもりてあかつきかた四月薨 千鳥のなき侍ければ

三二 明にけりかもの川せにちとりなくけふもはかなくくれんとすらむ 円

三三 風雅—颯(叢竜) 祐光—祐寛(叢竜)

三三 統撰—統後(叢竜)

一 若川—若水(叢竜)

三三 づくる—つくす(竜)

三六 一—新古(竜)

2 白川名所四ヶ所—ナシ(叢) 3 一所当—一所当
國(竜)

三毛 一—古(叢竜)

三毛 影きよき—かけたかき(竜)

三毛 古今—古(叢竜)

三〇 後拾—後撰(叢) 契けむ—たのみけん(叢)

4 御幸ふりにし—ナシ(叢竜)

三三 一—同(叢) せり川や—せり川の(竜) 読人不—
読不(叢竜)

三三 風雅 君かため三國うつりて清瀧のなかれにすめるかもの水かき
〔照法師 祐光〕

鴨羽川 同所

三三 統撰 さかのほるかものは川のそのかみをおもへは久し代々の水かき 常磐

御手洗〔若川 水にすれる 山あひの袖 ほたる〕 〔井入道

三三 ころつくるみたらし川の亀なればのりのうき木にあひぬなりけり 斎

瀬見小川 同所

三三 新古 いし川やせみのを川の清ければ月もなかれを尋てそすむ 長明

有栖川

三六 ちはやふるいつきの宮のありす川松とともにそ影はすむへき 京極前

〔大政大臣

〔春の本すゑ 松と花の〕 白川 同郡 白川名所四ヶ所² 一所当³ 一所望⁴ 奥國 檜垣 樞歌

三三 ちのなみた落てそ瀧つ白川は君か代までの名にこそありけれ 素性

三三 千 影きよき花のかみとみゆる哉のとかにすめるしら川の水 家基

音羽川 同郡

三三 古今 余所にのみきかまし物を音羽川わたるとなしに見なれそめけん 兼輔

中川 京極川 二条上

三〇 後拾 ゆくすゑをなかれてなにか契けむたえける物を中川の水 命婦

三二 統古 この比はなかるゝ水をせき入て木陰涼しき中川の宿 光俊

芹河 御幸⁴ふりにし

三三 今朝たにもよをこめてとれせり川や竹田のさなへふしたちにけり 読

木幡川 宇治郡

〔人不

三三 拾遺—拾(観竜) 瀧津せもなし—瀧つせもかな
(観)・—読不(竜)

三四 さるらし—さるらむ(竜)

三三 拾遺 こはたの川こはたかいひしことの葉そなき名すゝかん瀧津せもなし
宇治川〔すかも 鴨飼舟〕 同郡

三五

三五 玉—ナシ(竜)したひも—下をひ(観竜)

三四 宇治川に舟はよせよとよはへともきこえさるらしかち音もせず
朝ほらけうち川の霧絶々にあらはれわたる瀬々のあしろ木 定頼

三六

三六 続後撰—続千(観) 続後(竜)

三六 新古 桂川 乙訓郡 寂蓮^三ウ

三七 続後撰—続千(観) 続後(竜)

三七 久かたの中なる川の鴨飼舟いかに契りてやみを待らむ 定家

三八 続後撰—続千(観) 続後(竜)

三八 続後撰 かつら川かさしの花の影見えしきのふのふちそけふは恋しき 実方

三九 新古—新古(観竜) 公衡—公衡

三九 新後 月ならて夜川にさせるかゝり火もおなしかつらの光とそみる 為家

四〇 諷後—新古(観竜) 公衡—公衡

四〇 諷後 かりくらしかたのゝま柴打敷てよとの川せの月を見る哉 公衡

四一 新古前—諷(観竜)

四一 新古前 五月雨に岸の青柳枝ひちて木すえをわたる淀の河舟 隆教

四二 新古—ナシ(竜)さてのみは—さてのみや(観)

四二 井手川 綴喜郡〔玉藻かる 苗代水〕

四三 新古—ナシ(竜)さてのみは—さてのみや(観)

四三 千 くらなしの色にそめする歎冬の花の下ゆく井手の川水 定経

四四 同 駒とめてなを水かはむ山吹の花の露そふ井手の玉川 俊成

四四 新古 もらさはや思ふ心をさてのみはえそ山しろの井手のしからみ 大輔

四五 同—千(竜)

四五 同 玉川 已上同三所

四六 玉—ナシ(竜)したひも—下をひ(観竜)

四六 玉 ときかへし井手のしたひも行めぐりあふせうれしき玉川の水 同

四七 相楽郡—ナシ(竜)

四七 泉川〔こま山 相楽郡〕

四八 仲実—中実(観)

四八 万 こま山になく郭公泉川わたりを遠みこゝにかよはず 仲実

四九 仲実—中実(観)

四九 千 泉川水のみわたのふしつけにしはまの氷冬はぎにけり 仲実

五六 玄範—範(竜)

五九 斗に—はかりそ(叡)頭伸—ナシ(叡竜)

四〇 続後撰—続後(叡竜)

四〇一 続古(叡竜)

四〇三 かくる—わたる(竜)

四〇三 一古(叡竜)なかる—なかつ(竜)

四〇四 一同(叡竜)有輔—ふかやふ(叡竜)

四〇五 万—万八(竜)今や—今か(叡)

四〇六 続後撰—続後(叡竜)かくる—かゝる(叡)かへる(竜)

四〇七 後拾—後撰(竜)なかれ—水(叡)

1 佐保川—佐保(叡)

四〇八 うちわたす—打わたる(叡)

四〇九 一後撰(叡竜)読人不知—読不(叡竜)

四一〇 一拾(叡竜)

三六 同 なにことのふかき思にいつみ川その玉もとしつみはてなん 玄範

澤田川〔袖つくはかり〕

三九 金 五月雨に水まさるらし澤田川真木のつき橋うきぬ斗に 頭伸

四〇 続後撰 さはた川せゝのしら糸くりかへし君うちはへて万世やへむ 躬恒

四〇一 澤田川ゐてなるあしのかりそめもあさしや契り一夜斗は 宗尊親王

楯小川

四〇三 新古 御破するならのを川の河かせにいのりそかくる下にたえしと 八代女

大和国

龍田川〔岩瀬の森 柳〕 平群郡

四〇三 年ごとに紅葉はなかるたつた川みなとや秋のとまりなるらむ 貫之

四〇四 神なひの山をすぎ行秋なれば立田川にそぬさは手向る 有輔^{三ウ}

神南備川 同郡

四〇五 蛙なく神なひ川に影見えて今やさくらん山ふきの花 厚見王

四〇六 続後撰 夏くるゝ神なひ川のせをはやみみそぎにかくる浪のしらゆふ 為経

富緒川 同郡

四〇七 後拾 万代にすめるかめ井の水やさはとみのを川のなかれなるらん 弁乳母

1 佐保川 添上郡〔古郷 霧〕

四〇八 万 うちわたすさはのかはらの青柳は今春へともえにける哉 坂上郎女

四〇九 夕されはさほの川せにあるたつのひとりからうきねをそ鳴なる 読人

「不知

四一〇 ． あかつきのね覚のちとりたかためにさほの河原におちかへりなく 能

「宣

四二 一・金(叡竜)

2 河出—この行にあり(叡)

四三 鳥の心あらは—鳥も心あれば(竜)

四三 一・同(叡)同十三(竜)

四四 続後撰—ナシ(叡)たどりよる(叡)竜 覚寛—

ナシ(叡)この部分虫食い(竜)

四六 同—ナシ(叡)

※ 四六の次に四首あり(叡)。後記。

四〇 万—方九(竜)川を—川と(竜)

四三 うかふ—うかる(竜)

四三 古今—古(竜)

四二 一・ さほ川の汀にさけるふちはかま浪のよりてやかけんとすらむ 忠季

飛鳥川〔河出 葛城 千鳥〕 高市郡

四三 万 あすか川七瀬のよとにすむ鳥の心あらはこそ浪たてさらめ

四三 一・ あすか川せゝの玉ものうちなひき心もいもによりにける哉

三輪川〔河出 布留のわさ田〕 城上郡

四四 続後撰 うかふへきたとりなくてや朽はてんうきみわ川のそこのもくつは 覚

泊瀬川〔ゐてこそ浪 せゝの埋木〕 同郡 「寛

四五 新古 石はしる泊瀬の川の浪まくらはやくも年の暮にける哉 後徳大寺左大

「臣

四六 同 涼しさは秋やかへりてはつせ川ふる川のへの杉の下かけ 有家

四七 卯の花のさきちる比や初せ川しらゆふ浪もきしをこゆらむ 為相

吉野川 吉野郡

四八 万 ちとりなくみよしの川の音しけみやむ時なしにおもほゆる哉 車持千

「年

四九 新勅 よしの川瀧つ岩ねの藤の花手折てゆかん浪はかくとも 越前

夏箕川〔鴨 あさち色付 日くらし 五月雨〕 同郡

四〇 万 山たかみしらゆふ花におち瀧津なつみの川を見れとあかぬかも

象小川 同郡

四三 続古 見る夢の面影までやうかふらむきさのを川の有明の月 権大僧都憲実

河内国

天川〔水かけ草〕 交野郡

四三 古今 かりくらししたなはたつめに宿からむあまのかはらにわれは来にけり

「三ウ

四三 続後撰―続後(叡)

四三 続後撰 天の川とをきわたりになりけりかたのゝみのゝ五月雨の比 為家

〔業平〕

四三 拾遺―撰(叡)拾(竜)時は―時や(竜)

四三 同 見わたせはすゑせきわくるたかせ川ひとつになりぬ五月雨の比 師光

竹川

四三 古今―古(叡)竜 読人不知―読不(叡)竜

四三 古今 さゝのくまひのくま川に駒とめてしはし水かへ影をたにみん 読人不知

撰津国

1 葛アリー菊在(竜)

四三 水無瀬川 嶋上郡 〔山もとかすむ 葛アリ〕

四三 同―古(叡)かよひて―よひて(叡)

四三 同 ことに出ていはぬ斗そみなせ川下にかよひて恋しき物を 友則

四三 朽はぬらん―朽はてぬらん(叡)竜

四三 人心なにを憑てみなせ川せきのふるく朽はぬらん 基俊

阿久刀川 同郡 〔津の国のまろやは人を〕

四三 なかれぬ―たかはぬ(竜) 承香殿中納言―中納言(叡)

四三 拾遺 人をとくあくた川てふ津の国の名にはなかれぬ物にそありける 承香

玉川

〔殿中納言〕

四三 今や―今は(竜)

四三 千 つらゝるてみかける影の見ゆる哉まことに今や玉川の水 成家

2 八郡郡―ナシ(竜)

四三 湊川 八郡郡

四三 同―千(竜)

四三 同 みなと川うきねの床にきこゆなりいく田の奥のさほしかの声 範兼

伊勢国

御裳瀧川 度会郡

四三 後拾―後撰(叡)経隆―経信(竜)

四三 後拾 君か代はつきしとそ思ふ神風やみもすそ川のすまんかきりは 経隆

四三 諷―ナシ(竜)

四三 諷 ふちなみをみもすそ川にせき入てもゝえの松にかけよとそおもふ 西

3 宮桂—宮はしら(叡竜)

四三 音そのとけき—音の長閑さ(叡)

五十鈴川 同郡 [宮桂 松の夕かせ]

[行

四四 続古 神かせやいすゝの川のいその宮とこよの浪の音そのとけき

師繼

四五 新後 まきもくのたかきの御代に跡たれて宮井ふりぬるいすゝの川浪

定忠

宮川 同郡

四六 新古 ちぎりありてけふ宮川のゆふかつらななき世までもかけて憑まむ 定

度会川

[三ツ]家

四七 万 わたらひの大川のへのわかくぬきわかくしあらはいもこふるとも

鈴鹿川 鈴鹿郡

四八 新古 すゝか川ふかき木葉日数へて山田の原の時雨をそきく 大上天皇

四九 続後撰 すゝか川ふりさけ見れば神ち山榊葉分て出る月影 僧正行意

五〇 続古 鈴香川我身ふりぬる老の浪やせせもちかくぬるゝ袖哉 知家

駿河国

富士川 富士郡

五一 同 船よはふ富士の川戸に日は暮ぬ夜半にやゆかんうき嶋のはら 基政

下総国

五二 新勅 角田川〔水の泡〕

五三 新勅 まつち山夕こえ暮ていほさきのすみ田かはらにひとりかもねん 弁基

常陸国

五四 玉 ことゝへとこたへぬ月のすみた川都の鳥と見るかひもなし 典侍

常陸国

五五 美奈乃川 筑波郡 「恋そつもりて測となりぬる」 雅有

五六 続拾(叡竜)ちりつもる—成つもる(叡)

3 宮桂—宮はしら(叡竜)

四三 音そのとけき—音の長閑さ(叡)

五十鈴川 同郡 [宮桂 松の夕かせ]

[行

四四 続古 神かせやいすゝの川のいその宮とこよの浪の音そのとけき

師繼

四五 新後 まきもくのたかきの御代に跡たれて宮井ふりぬるいすゝの川浪

定忠

宮川 同郡

四六 新古 ちぎりありてけふ宮川のゆふかつらななき世までもかけて憑まむ 定

度会川

[三ツ]家

四七 万 わたらひの大川のへのわかくぬきわかくしあらはいもこふるとも

鈴鹿川 鈴鹿郡

四八 新古 すゝか川ふかき木葉日数へて山田の原の時雨をそきく 大上天皇

四九 続後撰 すゝか川ふりさけ見れば神ち山榊葉分て出る月影 僧正行意

五〇 続古 鈴香川我身ふりぬる老の浪やせせもちかくぬるゝ袖哉 知家

駿河国

富士川 富士郡

五一 同 船よはふ富士の川戸に日は暮ぬ夜半にやゆかんうき嶋のはら 基政

下総国

五二 新勅 角田川〔水の泡〕

五三 新勅 まつち山夕こえ暮ていほさきのすみ田かはらにひとりかもねん 弁基

常陸国

五四 玉 ことゝへとこたへぬ月のすみた川都の鳥と見るかひもなし 典侍

常陸国

五五 美奈乃川 筑波郡 「恋そつもりて測となりぬる」 雅有

五六 続拾(叡竜)ちりつもる—成つもる(叡)

四四 浪の花―花の浪(竜)

1 関川ともよめり―関河とよめり(叡竜)

四六 数も―ナシ(叡)

四七 ー 後後(叡)新古(竜)

2 かゝり火―ナシ(叡)

四八 拾遺―拾(叡)竜 みえける―みえけり(竜) 元縁―

ナシ(叡) 続後拾―続後(叡)竜

四九 ー 新古(叡)竜 やとるなり―やとりけり(叡)竜

3 ー 野洲郡(竜)

四五 ー 拾(叡)竜 すみそあひける―すみそあひにけ

る(叡)すみてあひける(竜)

※ 四五の歌なし(叡)竜。

四六 ー この部分虫食い(竜) こたへて―こたへよ

(竜)天智天皇―天地天皇(叡)

四七 おもひそめなん―おもひたえなん(叡)竜

四八 古今―古(叡)竜 読人不知―読不(叡)竜

桜川

四四 後撰 つねよりも春へになれば桜川浪の花こそまなくよすらぬ 貫之
近江国

四六 千 関小川 滋賀郡 〔関川ともよめり〕 道經
横川〔九重〕 同

四七 ー 都より雲の八重たつおく山のよかはの水はすみよかるらむ 天曆御歌
田上川〔みほの山かせ かゝり火〕 同郡

四八 拾遺 月影の田上川のきよければあしるのひをのよるもみえける 元縁
続後拾 夜をさむみかたしきわふる衣手の田上川にちとり鳴なり 国助

四九 野路玉川 同郡
四〇 ー あすもこんのちの玉川萩こえて色なる浪に月やとるなり 俊頼
野洲川 3

四一 ー 万代をみかみの山のひくにはやす川の水すみそあひける 元輔
旅人もみなもろともに朝立て駒うちわたすやすの川霧 安嘉門院四条

四二 不知哉川 犬上郡 〔瀬々のあた浪 なとり川とも〕 天智
いぬかみの床の山なるいさや川いさとこたへてわか名もらすな

四三 鳥籠山川 同所 〔天皇
四四 続古 ちりをたにはらはぬとこの山川のいさやいつよりおもひそめなん 宗
美濃国

四五 関藤川 不破郡 〔尊親王

四六 古今 みのゝ国関の藤川たえずして君につかへん万代までに 読人不知

四四七 一一金(叡竜)

四四七 伊津貫川〔むしろ田〕
・ 君か代はいく万世かかさぬへきいつぬき川のつるの毛ころも 道経
信濃国

四四八 一万(竜) ふまては―ふみなん(叡) ふみなは
(竜)玉はひろはん―玉や拾はん(叡) 玉とひろは
ん(竜)

四四八 筑摩川 小縣郡
・ 信濃なるちくまの川のさゝれ石も君しふまては玉はひろはん
ちくま川春行水はすみにけり消ていく日の嵩の白雪 順徳院

四四九 諷―ナシ(叡)同(竜)嵩―嶺(叡)竜
読人不知―読不(叡)竜

四四九 更級川
新勅 今さらにさらしな川のなかれてもうき影みせん物ならなくに 読人不
陸奥国 「知

四五〇 古今―古(叡)竜まては―さては(竜) すへなし―
すくなし(叡)

四五〇 阿武隈川 安達郡 〔けふのわかれ わたしの舟〕
古今 あふくまに霧たちわたり明ぬとも君をはやらしまてはすへなし 家隆

四五二 新古―ナシ(叡)待けり―まちける(竜)

四五二 新古 君か世にあふくま川の埋木も氷の下に春を待けり
つらくともわすれすこひんかしまなるあふくま川にあふ瀬ありやと

4 名取郡―ナシ(叡)

四五三 名取川〔涙 流木〕 名取郡⁴ 「順

四五三 重之―ナシ(叡)
・ 一この部分虫食い(竜) あらはれて―あらはれ
は(叡)読人不知―読不(叡)竜

四五三 新古 なとり川やそ瀬の浪そさはくなる紅葉やいとよりてせくらん 重之
・ 名とり川せゝの埋木あらはれていかにせんとかあひみそめけん 読人
衣川〔袖のしからみ〕 磐井郡 「不知

四五五 読人不知―読知(叡)竜
四五六 読後拾―ナシ(叡)読後(竜)

四五五 拾 袂よりおつるなみたはみちのくの衣川とそいふへかりける 読人不知
四五六 読後拾 あさからす思そめてし衣川かゝるせにこそ袖もぬれけれ 元輔〔三ノ

四五七 一―新古(竜)こして―こえて(叡)

四五七 野田玉川〔水月影〕
・ ゆふざればしほかせこしてみちのくの野田の玉川千鳥鳴なり 能因
出羽国

四六 あらすいあへす(竜)浪哉なる哉(竜)

1 長歌の御返事―長歌の御返し(歌) 2 又御返事―又御返し(歌)

四六 ・拾遺(竜)いのちたらずして一跡たえずして(歌)いのちたえずは(竜)・一東三条太政大臣(竜)

四七 いなふねもいな舟の(歌)

四七 後鳥羽院御―後鳥羽院(歌竜)

3 石見国―「素鷲川」の前行(歌竜)

四七 かつしく―かつしき(歌竜)よは哉―夜るかな(竜)

4 飾万郡―次行の「飾万川」の下(歌竜)

四七 万―ナシ(歌)海に―沖に(竜)

5 伏見院―伏見(歌)玄耀門院―ナシ(竜) 6 実雄公女―実雄公母(竜)

四七 ・一飄(歌竜)草の―菊の(歌竜)隆博―ナシ(竜) 7 伊都―ナシ(歌)姉都(竜) 8 那賀―決之―次行の「妹背川」の下(歌)

9 妹背川―前行の「紀伊国」の下(竜) 四七 統後撰―統後(歌竜)説人不知―説不(歌竜)

最上川 最上郡

四六 後撰 最上川ふかきにあらずいな舟の心かろくも帰る浪哉 三条右大臣

円融院御時東三条太政大臣撰政大入道大将はなれ給ひて後

奏せさせ侍ける長歌の御返事たゝいな舟のと仰られたりければ又御返事

四六 ・いかにせんわか身くたれるいな舟のしはし斗のいのちたらずして(歌)いなふねもとま引おほへもかみ川しはしはかりの時雨なりとも 基

丹後国 倉橋川〔菅〕 与謝郡

四七 はしたてのくらはし川にかかる草のなき日くらしすゝむ比哉 後鳥羽

素鷲川 石見国

四七 続古 ちとりなくそかの川かせ身にしてみますけかつしくあけぬよは哉 〔院御 讃岐〕

播磨国 飾万郡 飾万川

四七 万 わたつみの海に出たるしかま川たえんにこそ我こひやまめ

備中国

長等川 5 正徳元年伏見院後深草院御子御母玄耀門院 6 山階入道右大臣実雄公女御時大嘗会主基方

くむ人のよはひもさこそなかつ月のなからの川の草の下水 隆博

紀伊国 伊都 那賀 両郡 可決之

妹背川

四七 統後撰 いもせ川なひく玉藻の水かくれて我はこふとも人はしらしな 説人不

磐田川 牟婁郡

〔知

四六 拾遺一拾(叡竜)川とそ一瀧とそ(叡)なかれける
一なかれ出る(竜)

四六 になれぬ一みなれぬ(竜)

四六 後撰一ナシ(叡)

10 山城一越中一ナシ(叡竜)

四三 一後撰(叡竜)檜垣姫一ナシ(竜)。

※ 「松浦川」の前行に「肥前国」とあり(叡竜)。

11 肥前国也一ナシ(叡竜)

四三 一一万(叡竜)かはかせ一かはのせ(叡竜) あゆは
一あゆか(竜)

四三 万一同竜)

四六 やすきは一やすきに(叡)

四六 続拾 岩田川わたる心のふかければ神もあはれとおもはさらめや 花山院

音無川 同郡 「五月雨 岩浪たかく」

四六 拾遺 をとなしの川とそつゐになかれけるいはて物おもふ人の涙は 元輔

熊野川 同郡 「杉舟」

四六 新古 熊野川くたすはや瀬のみなれさほさすかになれぬ浪のかよひ路 大上

筑前国

「天皇

思川 「歎冬 螢 藻 岩本すけ」

四六 後撰 おもひ川たえすなかるゝ水のあわのうたかた人にあはてきえめや 伊

染川

「勢

四六 〇 そめ川をわたらむ人のいかてかは色になるてふことのなからむ 業平

白川 山城 奥州 越中

四六 年ふればわか黒かみもしら川のみつはくむまで老にける哉 檜垣姫

松浦川 肥前国也 松浦郡 七瀬淀

四三 まつら川かはかせはやみくれなるものすそぬれてあゆはつるらん

玉嶋川 「柳」 同郡

「輔元

四三 万 玉しまの此川上に家はあれと君をやさしみあらはさすありき

四三 続千 梅か香やまつうつるらむ陰きよき玉嶋川の花のかゝみに

四三 未勘国 定家」

石川

四六

石河やあはに契りやむすひおきし花たのおひのうつりやすきは

四六 後鳥

「羽院